

南園會報

會報部
備付

第八號

山口縣萩高等女學校南園會報 第八號 目次

● 口 繪 本校理科教室

● 教 の 園 (一頁)

○卒業式訓話.....會長 齊藤 彦一
○講演.....第一高等學校教授 ユンケル氏
○女子體育に就て.....特別會員 長澄 市衛

● 文 の 園 (一一頁)

初夏の宵.....本二 井上ヨッコ
初夏の林.....本二 溝部キク江
南園より指月山を望む.....本三 椋木ヨシ子
宵月の下に.....本三 兼重 龜子
讀書の樂み.....本三 鈴川ヒナ子
元 旦.....本二 窪田ヨシ子
五月雨の日.....本三 井上 捷子
初夏の朝の玉江.....本四 山本 キク
運動會の記.....本四 陶山ミサコ
我々の運動會.....本三 中村 ヨシ
開校記念菊花會.....本四 椿 マス子
初 夏.....本四 陶山ミサコ
初夏晝食後ノ休憩時.....補 鹽見 愛江
夕 影.....全 全 澄川 孝子
亡友安野花子嬢.....實三 全 人

● 本校記事 (二二頁)

○大阪毎日新聞社通俗教育講演○講和祝賀式
○水泳講習會○ユンケル教授來校○齊藤校長全國
高女校長會出張○西比利亞出征軍慰問袋○校外
教授○榮正彌氏來校○軍艦名寫真大額画○文
部省視學委員來校○第三回體育會○開校記念式
及菊花會○玉木中佐來校○松陰先生事蹟講話○
本縣知事夫人來校○鶴臺先生夫人淑德○郡會議
員來校○陸軍記念日○卒業證書及修業證書授與
式○阿武郡民力共進會出品○學校組織變更○學
則變更○本學年の開始○學科受持級監及各學年
生徒數○先生の轉任及退職○先生の就任○本校
創立記念式○郊外遠足○忠正公勤王事蹟講話會
○松陰先生記念講話會○海軍記念日講話會○本
年の養蠶○理科教室改造及圖書器械器具購入

● 本會記事 (三七頁)

○皇后陛下御誕辰祝賀式及新入會員の歡迎會
○第六回同窓會○卒業生修了生の送別會○皇后
陛下御誕辰祝賀式及南園會學藝會

● 篤志者芳名 (三九頁)

● 會員名簿 (一頁)



右理科教室ハ生徒ノ實驗並ニ講義兼用ノ目的ヲ以テ大正八年度ニ於
 テ從來ノ階梯式講義室ヲ改造擴張シタルモノニシテ別ニ實驗用具標
 本參考用圖書購入費ト共ニ費金合計六千四百八圓清子兵ノ寄附ニ依ル

理科教室 (大正九年七月攝影)

山口縣
萩高等女學校

南園會報

第八號

教の園

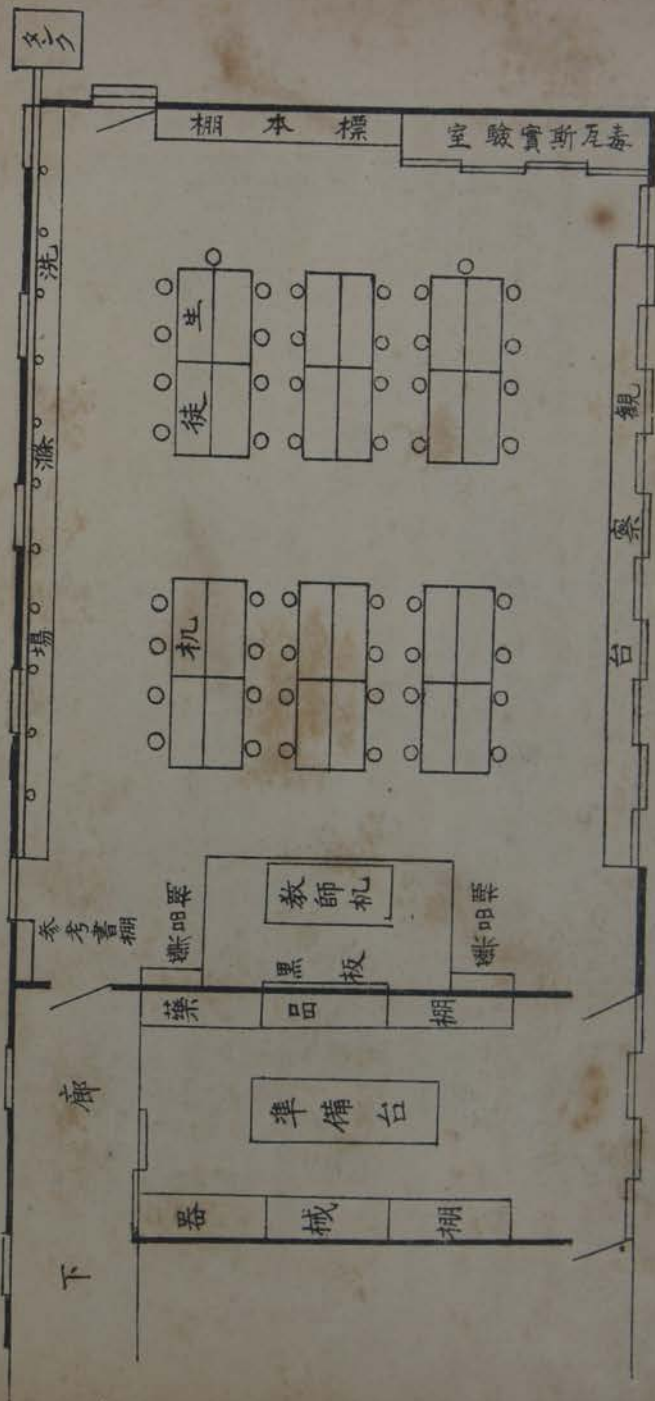
第七回卒業式に於ける訓話

齋藤會長

予は今、諸子が卒業並に修了の榮譽を擔ひつゝ本校を辭せんとするに當つて、諸子の前途を祝福すると共に、一言を述べて聊門出に噓したいと思ふ。

人は曰ふ、世の荒波は高いと、誠に其の通りである、併し高いのは幸である、之を乗り切る所に生活の味ひがある、努力と苦心の伴はない生活は、平凡で無味乾燥なものはない、平凡な生活は、他人から見れば羨ましがれる境遇に見えるけれども、自らは深く其の味ひを味ひ得ない計りでなく、却つて平靜に忸れ、慢心を生じ、不幸を招くことが少くない、波浪高き生活は、一見危険の如く見えても、鞏固な意志を以て、風雪を凌ぎ波濤を冒し、歩一步進み行く所に、希望の光明を認め得て、無限の愉快を味ふことが出来る、諸子は、將來如何なる困難に遭遇するとも、如何なる逆境に身を置くとも、皆これ、自らを玉成するの資料と觀じ、至誠と努力とを以て初一念を遂行するならば、一難を経る毎に勇氣も加は

理科教室平面圖



り、無限の喜悅と満足を感じ、禍を轉じて福となし、終には目的の彼岸に到達することが出来ると思ふ、次に、諸子の終生忽にすべからざることは、不斷の修養である、學校の教育は、實は其の基礎を築いたまでに過ぎない、人格高き徳操堅實な婦人となつて、其の天職を全うするには、更に今後に於ける諸子各自の修養に待たなければならぬ、試に、今日一般婦人の情況を見ると、平素名士の講演を聴講するでもなく、道徳衛生育児等の著書を繕くでもなく、新聞や雜誌を見ても、政治外交の事や生活問題や思想問題に關する記事には目も觸れず、只僅かに、三面記事で満足をする、耽るものは演劇興行の見物、讀むものは小説講談物の類である、斯くて結婚後五年経ち十年経つ内には、著しく社會の進歩に後れ、知識は次第に減退して、理解ある夫の慰安者どころではなく、我が子の小學校課程の復習さへ、碌々監督も出来ない有様で、甚心細い次第である、今回の戦争に於て、歐米の婦人が男子に代りて偉大な働を爲したといふことは、彼等に優秀なる體格と進歩したる知能があつた結果である、而して彼等に學校教育が進んで居ることは無論であるけれども、學校を卒業して後家庭の人となつても、斷へず讀書修養をなし、日進の文明を吸収して居るからである、諸子は、家庭に入りて後も、身體の勞苦を厭はないで終日まめやかに立働くことは最も希望する所であるが、世界文化の大潮流中に立つて、内助の功を全うし、男子と共に國家に貢獻すべき大使命を有する日本婦人としては、今一層修養に心掛け、精神的生活を豊富にすることが必要である、諸子は學校の卒業を以て、決して修養の卒業と思ひ誤ることのないやうに希望する。

終りに一言することは、今や世界は戰亂の影響を受けて改造革新の機運が各方面に亘つて洋溢して居

る、世運の進歩思想の推移、蓋し今日より甚しきはない、諸般の事物は漸次世界的となり、東西の文明は日に益接觸して來る、將來の我國は何事も世界の影響を受けたい譯には行かないけれども、徒らに時流に浮れ空想に憧れ、外面皮想に附和雷同して、新を衒ふの女たることは深く警めねばならぬ、新しいもの必ずしも善くはない、古いもの必ずしも悪くはない、眞義を究めテ利害を察せず、况んや、國體國情の如何をも顧みずして、奇矯なる言論に感服し、女子の天職を抛ち、本分を忘れ、我邦固有の家族制度を危くするが如きものは、斷じて諸子の探ることを許さざるものである、以上三點は、只予の別辭に過ぎない、婦人として守るべき德行ふべき道は、既に平素に於て之を説き悉して居るから、今茲に再説の要を認めない、諸子克く實踐躬行其の本分を盡し、以て今日の榮譽に負かないことを希望する、予は切に諸子の益健康にして多幸多福ならんことを祈る。

講演

第一高等學校教師 エ、ユンケル氏

ユンケル氏は獨逸人にして我第一高等學校教師たり大正八年八月より同夫人(米國人)と共に當地河添なる瀧口氏別邸に來泊中なりしが當校長の需めに應じ九月三日ユンケル氏及同夫人瀧口明城先生同令息吉春氏と共に來校せられ本校生徒に對して特に英語を以て一處の講演をなし瀧口吉春氏之を明快的確に通譯せられたり因みに通譯者瀧口氏令息は目下早稻田大學々生にして

親愛なる諸嬢

私は冗長なる御話をして御疲れを招く考はありませんが、日本に参りまして、私が得ました諸種の印象に關する事丈、暫く申述べたいと思ひます。地理上よりは日當りよき豊饒なる國であると感じ、國民の特質としては大に其境遇の影響を受けて、快活なる懇切なる人々であると思つてゐました。

先づ申上げ度事は、私共「私自身と家内」との以上の尊ぶべき理想は、猶大に及ばざるものがあつたといふのです。私共は日本の或地方の美しき景色には、其他の地方にては見られぬものと観ました。日本は季候温和にして土地に施さるゝ労働の報酬は多大であります。人々の心は一方に於て其太陽の如く温情に充ち、其肥沃なる土地の様に潤澤懇篤にして、又其森林乃至山嶽の如く、勇壯なる所があります。然し猶一層私共の感心してゐますのは、人々の精神徳性の方であります。過去の偉大なる事實は是を語り知らしめてをります。一昨日松陰神社に参詣致しました。此質素簡易なる境遇に於ける先生の生活事業の物語は、私共に偉大なる印象を與へ、初めて克く日本近世を作ること貢獻したる大なる方のありし事を了解し、且つ此偏鄙なる地方より、新日本を作り出せし多数の活動家の出でしことを知りて驚きました。此先輩の意氣精神は此所に依然存在してゐます。如何なる國民にても誇りとなし得る此地方にある市民の胸裏には、此公的情操が明確に嚴存してゐます。精神的活動力の連脈は益々展開しつゝありま

す。皆過去の教育は、主として男子のみに限られてゐましたが、今や次期國民の母の教育も又忽にすべから

ざることを考へ、物質的並に精神的道徳的進歩を繼續せしめんと、當地に於ても努められるのであります。諸嬢は如此公共心に富める紳士淑女によりて、提供せらるゝ此等の好適なる境遇を利用し、自己の生涯の事業に順應する適切なる修養を重ね、所謂「新しき婦人」の唱ふる突飛的行動を掛け、家庭の主婦たる資格を磨かれたきものであります。永世に於ける詩聖ゲーテは、其傑作の一なる「ヘルマンとドロテア」(諸嬢の讀まれんことを切に望む良き翻譯書あり)中に、女主人公をして左の如く曰はしめま

す。婦人は主婦の役目を修むべきなり。これを其使命なり。之をなすによりてこそ權あるものなり。

校長室に於て、松陰先生母堂の肖像を見ました。其母堂の事については世間に多く知られてゐないかも知れませんが、立派なる婦人であり尊むべき母親でありし事は疑ふ事が出来ません。善良なる母の子は悉く偉人なりしとは申されず、又必ず偉大ならざるべからずといはれませんが、偉人は善良なる母より皆出でたりといはれます。松陰先生の母堂を考へて見て下さい。余り長く御話するのは恐縮ですが、結論として此丈の事を申上げ御勧めします。即ち日本の此の秋の偉大なる先例を御學びなさい。諸嬢の夫々の境遇に於て善事をなす事を専ら努められよ。ゲーテ詩聖は又かく教へてゐます。

なせ汝の好運を遠きに求むるか。善美は目前に横はれるにあらずや。身邊に隨へる幸福を捉へんと心懸けよ。幸福は常に汝に伴ふものなり。

(終)

女子體育に就て

特別會員 長 澄 市 衛

日本人の體格は歐米人の體格に比して極めて低劣であり、其の体力が彼等に遠く及ばざることは何人も首肯する所である。殊に女子の體格の劣悪であり、その體質の薄弱なることは、誠に慨嘆に堪へぬ次第である。從來日本人の多くは體育を重んぜず、餘りに健康を度外視して居たので、この惡傾向は女子に於て一層甚しい様である。

日本人は病身的國民である。日本人は多く國民病に悩んで居る。曰く肺病、曰くトラホーム、曰く十二指腸、曰くリウマチス、曰く蛔虫、曰く脚氣、曰く胃病等、枚擧に遑がない。而も一人では是等數種の病氣を持つて居る者も少くはない。余り慾の深い話である。醫者の玄關が繁昌するのは國民の不健康を意味するので、決して喜ぶべき現象ではない。氣候溫和にして、四季の風景に富み、健康の爲めには樂園であると誇つて居る我國の風土も、これでは病魔に悩む羸弱者の療養地と言つても差支へばあるまい。肺結核は近年猛威を逞うして、毎年數十萬の死亡者を出して居る。獨乙に留學せる學生が、トラホームの研究に餘りに患者の少かりしに苦しめるに反し、我國は「人間到る處トラホームあり」の盛況を呈して居る。

國民の病弱は國民の精神に惡影響を及ぼすものである。病弱なる國民は短氣にして持久力なく、進取的發展的氣象を失ふに至り、實に亡國的徵象を現はすものである。

かゝる現象は、一に抵抗力の薄弱なる軀體と、衛生思想の缺乏とに歸因するのである。我國民は實に薄弱である。されば一度傳染病の流行するに際しては、國を擧げて之に犯さるゝのである。近時日本人の体力の減退せるは、左に示せる徵兵検査の統計によりても明である。

壯丁百人につき、疾病のため丙丁種となれるもの

	甲種	丙種
明治四十二年	三九・一人	一八・五人
全 四十二年	三九・五人	一八・八人
全 四十四年	三八・四人	一七・一人
大正元年	三六・七人	一九・二人
全 二年	三六・五人	二〇・二人

壯丁検査の結果は逐年甲種合格者を減じ、身長に於て増加すれども、體重に於て年々平均十八匁を減じつゝある。壯丁の体力は統計に於て逐年低下の傾向がある。國防上誠に由々敷い問題である。壯丁体力の減退は、其原因多々あれども、其の重なる原因は母體の薄弱に基因するのである。母親の體格が子女の體格に影響することは、遺傳學上確認せらるゝ所で、統計に徴しても明である。實に體質のみならず、其の他の素質に於ても亦體かに子孫に影響すること甚からざるは事實である。故に健全なる國民を得んとせば、先づ女子の身体の強健を圖ることが極めて必要である。

次に日本人は明治三十四年以來、死亡率増加し、現在世界文明國中最高位にある。

死亡率(人口千人につき)

	四十年前	現在
英	一一・四八	一四・六八
獨	二八・二八	一七・三三(戰前)
佛	一一・四八	一九・三三
日本	一六・〇八	二一・〇八

日本人は實に若死をする國民である。殊に婦人の死亡率は著しく男子を凌いで居る。女子の體質薄弱にして、病氣に對する抵抗力弱く、且つ出産率減少し、乳汁分泌の不足甚しく、第二の國民の體質をして益々低下せしむる傾向を現はせるは、實に痛嘆すべきである。

今や世界の大勢は日と共に漸く變動を來し、國際競争は益々激烈を加ふるの時、日本も世界の強國に列し、雄を世界の舞臺に争はんとするの時に當り、國民の健康状態以上の如く不良にして、國民体力の低下日に甚しからんとす。國家の前途誠に憂ふべきである。東亞の形勢日に非にして國民の實力養成焦眉の念に迫れる時、國民の体力に想到せば、一日も安居逸樂を恣にするを許さぬのである。實に國力發展の根柢たる體育の振興に奮闘努力すべき時である。國民は大いに覺醒し、體育の必要を覺り、之を獎勵し、着實なる實行によりて、体力の増進を企圖しなければならぬ次第である。

殊に女子體育の振興は急務中の急務である。女子の天賦を全うする上よりして、將又第二國民を健全に養成する上よりして、女子体力の増進を圖らねばならぬ。即ち女子は天賦として妊娠出生及育児等の重

大なる任務を有するものである。女子は健全なる第二國民の養成者であり、健全なる國家の建設者であると云つても敢て過言ではあるまい。女子は大いに體育的に自覺しなくてはならぬ。而して從來の如く引込主義で、靜的であつてはならぬ。積極的で動的にならなくてはならぬ。進んで運動を好愛しなくてはならぬ。靜かに引込んで居る所に病菌は養成されるのである。病魔は侵入するのである。病氣の間屋になつてはならぬ。肺病や胃病やヒステリーの看板は、撤廢しなくてはならぬ。而して血色の鮮かな筋骨の強靱なる健康屋の主人となり、而も調和せる、體格の所持者となり、肉体的の美人とならねばならぬ。風にゆらく吹き當てられる柳腰ではいけない。美人薄命とは女子體育の不振を語る言葉である。將來は美人長命でなくてはならぬ。由來我國の女子は、肉體美の觀念が甚だ乏しい。従つて眞に生命を愛顧する精神が極めて薄い。體育の根本觀念は肉體美の嘆美にある。生命を愛顧する精神に基かねばならぬ。現代の女子はあまりに裝飾的人工美に眩惑し過ぎて居る。美を心身の健康と調和に求めねばならぬ。この意味よりして、もつと衛生思想を向上しなくてはならぬのは謂ふまでもない事であるが、進んでは積極的に心身を鍛鍊しなくてはならぬ。従つて生活の内容を體育的に改善する必要がある。是れまでの様に女子は男子に準じて、強き運動を行つたらよからう、位では駄目である。しつかりやらねばならぬ。學校では盛んに跳んだり、はねたりして、體操もなし、遊戯もなした人が、家庭に入れば、長い振り袖に廣い厚板帯で、内裡儼然として、靜座して大きい呼吸もせない様では、やがては肺病の間屋になるまいとも言へぬ。内務省調査による女子死亡率及病名を觀察するに、主として運動の實施甚しく不足せるを實證して居る。即ち日本婦人は運動不足の爲め、虛弱に陥りつゝあるのである。女子が靜的で

筋骨を勞することを賤しむたること、肉體美の觀念乏しく、従つて生命を愛護する精神極めて薄弱ありしこと、女子の服裝が亦女子をして一層靜的たらしめたこと等は女子をして運動より避けしめたる主因である。次に社會狀態や、一般國民の體育思想の低劣なりしにも因ること大である。將來は是等の惡弊を打破して女子體育の向上を圖り、女子をしてもつと自由に、もつと盛んに運動せしめねばならぬ。而して心身を鍛鍊して健全なる、女子を作ることは、健全なる家庭を作る要素で、國民の素質を改善し、健全なる國家を建設する基礎である。この意味よりして大いに女子の運動を奨励しなければならぬ。吾人は運動の爲めに運動することを奨励するのではない。運動は心身鍛鍊の方法に過ぎないのである。體育の結局の目的は、心身の圓滿なる發達でなければならぬ。體育の目的を達する爲めに運動をやるのは、要するに手段である。筋肉の訓練は畢竟手段である。體育上最も都合のよい最も有効なる手段として之を行ふのであつて、運動其の物が決して結極の目的ではない。體育の目的を達する上に於て、運動は極めて重大なる價值を有するものである。是れが體育唯一の目的ではない。何處までも手段と目的とを混同し、誤解してはならぬ。此の意義に於て大いに正しき運動を行ひ、而して女子の體格の向上を促し、体力の増進を圖り、國力發展の基礎を作ることには戰後經營上一大急務であると思ふ。



文の園

初夏の宵

本科第二學年 井上ミッコ

棕櫚の葉影に涼しい風が流れて、初夏の日も黄昏の色が動いた。鏡の様に澄みきつた大空には、早や星影が夢の様にまたゞき初めて、東の空には今し十五夜の月が、雲間を出でゞさわやかに光つて居る。

打水の跡も涼しげな庭に下り立つた。つゞじ、日々草、撫子の花等、様々な草花は、しつとりとした夕の冷気に濡れて、花にも美しい水晶の玉の様な露を宿して居る。勢も無くしばんで居た晝の面影は何處へやら去つた様に、生々ど薄闇の中に浮んで互に私語いて居る様であつて、得知れぬ薫がかすかに鼻をついて来る。

靜かな夜風に、植込の青葉若葉は、絶えずさわ〜と鳴り、表座敷の風鈴は、しきりにチリン

〜と音がする。湯上りの私ははつてりと櫻色した肌にも、もう限りない涼しさを覺えた。月は今生垣の上二間ばかりも上つた。私は其の水々しい光を、體いつばいに浴せて、飛石づたいに、庭下駄をガラン〜引づゝて行く。

水無月の宵、何と言ふ静けさだらう。崇高さだらう。悲しみや残念は少しも無い。私は何と無く敬虔な心持になつて、靜かに立止り、あたりを見廻し凝つと耳を澄した。

一しきり青葉を鳴らしてそよ〜風が吹いて来た。するとゆら〜とコスモスの苗がゆれて、葉にかゝつて居た小さな打水の雫が落ちて足をぬらした。見るご何時の間にか青葉の影が、地上にはつきり描かれて居た。

ふと笑聲が耳に入つた。ふり返ると座敷には早や灯が明るく燈されて居た。皆は北の居間に集つてお話を話らしい。お向の赤ちゃんがお湯に來られ、何やら廻らぬ口調で喋られる様子。私の足も知らず〜其の方へと向いた。

初夏の林

本科二年 溝部キクエ

心地よい初夏の風が、木々の間からソヨ／＼と袂と裾をはらつて行く。目をつぶつて居ても臉をしま通すやうな明るい日光が若葉に降りそよいで居る。静かな林の今にも緑がしたゝるやうな青葉がくれに、ゆかしい時鳥の聲が聞えて、身にしんで打ち眺められた。

木々の間を、小川の水は涼しい音を立て、小石の上をせゝらいでゐる。白い薔薇の花が清い姿をして、其の水の面にのぞいて、じつと見入つてゐる。私は岸邊の岩に腰打ちかけて、いと靜かに水の音に添へて口吟んだ。時鳥も一さはさやかに、哀れに、鳴きしきつた。

入日はかくれて若やかなりし緑の林も何時か、薄暗い夕闇に包まれて、深い重い沈黙を守つた。けれども小川の水は調をかへず、あやしく、せゝらいでゐる。

南園より指月山を望む

本科三年 椋木ヨシ子

王政復古の原動力ともならせ給ひし一偉人たる忠正公の、此の學び家の垣根の内なる南園御殿に於て、香ばしき旗檀の二葉よと世人に稱へられて育ち給ひし事は、我が學び家に此の上もなき光彩を與へ給へり。ゆかり多き此の學舎の右窓より西北の方を眺むれば、毛利氏二百五十餘年間の城址なる指月山あり。圓錐狀にして風姿崇高、樹木鬱蒼春は翠色滴らんとし、秋は紅葉錦の如し。山下には今尚駈礫石壘巖然として存す。此地は即ち本城のありし所にして、毛利公の世々住はれし所なり。寛弘にして仁慈の情に富み、あたかも春雨の草木を潤すが如く士民を愛撫せられし毛利家歴代の恩徳は、防長人のあまねく敬慕する處なり。吾等は毛利氏に由縁多き此の學舎に起臥し、朝な夕なに校舎の窓より毛利氏の城址たりし指月山を眺む。その度毎に毛利家の厚き御恵みを追想して、感謝の念滾々として湧き出づるを禁する能はず。大空

に聳ねて見ゆる高嶺にも登れば登る道はありけり。』の古歌の如く學の道にいそしみて、修養の功を積み、やがて良妻賢母となり、防長の名譽を永遠に維持し、以て毛利公の厚恩の萬一になりとも報いずして可なるべき。

宵月の下に

本科三年 兼重 龜子

四方靜寂として人影なく、唯我一人立てるのみ月光玲瓏として萬籟死せるが如し。あゝ寂莫悲壯なる夜なるかな。我は無量の感にうたれ二三歩進む。月光を浴せる白露も霧に亂る。今まで千草のかげにて悲哀の曲を弾じ居たりしわいらしの虫の聲はたと止む。遙か大空を見渡せば、月は今彼方の大竹籟を離れ、清光溶々として上天下地を浸し身は水中に立つ思あり。東山にそびゆる鎮守の森も、淡くして手に取る如く見ゆ。側なる棕櫚は納涼を誘ふにや、サヤ／＼と月に賑く。

靜かに觀すれば、宇宙の富は殆ど陋なる我が家に

讀書の樂み

本科第三學年 鈴川ヒナ子

世の中に樂しみ多しと雖も讀書に如くものはあらじ。友なくて一人樂しみを覺ゆる、これ讀書なり月見草のはのかに匂ふ夏の夕暮れ、涼しき縁側に机持ち出して、歴史をひもどき、羅馬帝國の盛時に於ける市民の榮華の夢を想像するも實に樂しか

らずや。英雄割據して殺氣天にみなざる我元龜天正の戦國の昔を追想するも面白からずや。聖賢の教訓、烈婦貞女の教に、衿を整ふるも亦嬉しからずや。此れ皆讀書の樂みなり。然るに世人には此の讀書の樂しみを解せざるもの多きは、あはれむべきことと謂ふべし。貝原益軒先生も、讀書を好む者は天下の至樂を得たり。と宣ひぬ。されば我は今より閑暇にあらば、讀書にいそしみて樂しみとなし、南の園にて師の君の御惠澤を得て、日に月に教草摘上げて益々益雪の功を積まんかな。

元 旦

實科二年 窪田ヨシ子

初雞の勇ましき聲に、去年の夢を破られて、眼を開けば、初日影既に早くも我額を射る。若水をくみ、新年早朝の清々しき空氣を吸ひつゝ、庭園の中をそゝる歩きすれば、万物皆改りたる心地す。いでや年始に行かんとたらいづれば、吹く風なえとなく長閑にて、立てわねしたる松竹は、門毎に

百歳の色をあらはし、道行く人の語らう聲も爽なり。家々の軒端に日のみ旗高く飄りて、はたはと虚空に舞あるは、さながら治るみ代を祝ふに似たり。昨日までは田に畑に忙しう立働きたる賤の女も、今日は晴衣したり。晝になれば幼き妹等と共に、餘念なく羽子もて樂しみさわく。常はさびしき田の畔にも、今日は幼き子等紙鳶遊びに笑ひさやく聲賑はし。夜は更るを知らず、かるたやすごろくもて騒ぎぬ。一年の計は元旦にありとてか、實に希望多き新春は今日より始りぬ。

五月雨の日

實科三年 井本 捷子

しめやかに絲のやうな五月雨は今日も降りつゞいて、讀書にもあきた。私は、うつと寄宿舎の障子を開けました。

中庭の小さい躑躅は、赤色の艶々した花を枝一ぱいにつけて、その間々からチラ／＼と濃い緑の葉を見せてゐます。日毎に草のめだつやうに、のび

て行く築山、其の上の躑躅は大方は散つたが、まだ處々淋しく残つてゐる花もある。折から起つた微風に、あやめの花に宿つた雫が、ハ／＼と紫玉のやうに、こぼれて落ちました。

初夏の朝の玉江

本科第四學年 山本 キツ

いつしか東雲はのぼのとしらみ、曉を告ぐる鶏の聲に圓く樂しき夢をぞ破られける。朝風さわやかに吹きわたり、聾の雀は一聲二聲囀り、山寺の明けの鐘いと静かに鳴り渡り、裏山の樹々の緑は濃くして滴るばかりに見え、前に流るゝ阿武川の水は縁淡くして、小波も立てず油を流したる様なり手に取る様に近見わのする六島や、煙の如くに淡く見ゆる見島が、或は近く或るは遠く、日本海の中に散在す。やがて東山の陰より一團の金光さばゆく迸り出で、海上一時に金光を放つ。垣根の卵の花も一しは明るくなり。萬緑叢中紅一點と呼ばれたる晚咲きの躑躅の青葉に宿る白露の、そよよよ

と吹き来る風に吹かれてはら／＼と落つるは、金剛石の様なり。今朝ころは初夏の景色を眺めあかんど、やがて歩の進むに任かせて、草深き露の玉散る細道を、おもむろに歩みぬ。今や村里をはなれて、鼻歌勇ましく徐々にかなたの田圃に急ぐあり。嘗ては天使と歌はるゝ雲雀に宿貸せし事もありし姿は、今は刈りて打たれて、その程は焚るゝ時となりぬ。苗代の早苗も大分とのびて、蛙のヒョ／＼と飛びまはるも、いと興あり。本圃へ植付けらるゝも今数日後の事なるべし。折から近傍の家の時計の七時を報する音に驚きて、家路を辿らんと歩を廻らせば、かなたの森に明け鳥のカア／＼と鳴くをきく。(終り)

運動會之記 (A)

本科四年 陶山ヨシナ子

大正八年十月の三十日、指折り數へて待に待ちし運動會の當日は來た。青葉の影は名残なく去り、

錦かさまがふ木々の紅葉は廣い校庭をめぐつて鮮に見える。清く整理された校庭には、無数の彩旗が朝風にひらめいてゐる。萬般の準備盡くことのひて、今はたい開會の鐘を待つのみ。一發の煙火轟然として空に響く。集合の鈴を合圖に三百の生徒は、見る間に美しく整列して、校長先生の訓辭に耳をすます。一二の訓話を與へられて控所へど入る。やがて活躍の幕は開かれた。日本晴の好天氣ではないが塵ほこりが立たないで、却つて運動に適した好天氣である。運動はめき／＼と運んで行く。廣き運動場の周圍には觀衆が潮の如くに寄せて來た。第五番目の我等のハードルレース、もかなり骨の折れた業の一つである。一壇高く拵へられた來賓席もいよ／＼顔を以て埋められ、滿員の状態となつた。會場を包圍せる觀衆は、敏活なる少女の活躍に酔はされて時の移るも忘れて居る様である。やがて我等の待ちに待ちし學級別のリレーレースは來た。七色の襪を斜にかけた七人の選手はスラリと出發點に並んで用意の笛に身構へした。運動場を包圍せる數千の群衆は等しく選手

の方に注目する。一發の砲聲高く天にわたる。選手の手は弦を離れた矢の如く突進した。我等の拍手と應援の聲とが相和して校庭をゆする。選手も懸命我等も懸命、やがて無二無三に決勝點に突入して、第一等の審判旗を受け得たのは一年の梅組であつた。ついで二番三番もきまる。敏活にして規律ある行動、輕快にして秩序ある動作に、數百の看客を驚かして稱賛を博し得た。此れ實に我等が日常の訓練の賜である。短い秋の日は早西の空を五色に染めなして、淡い光は廣い會場を斜に照した。一日の歡樂こゝにめでたく終つて皆の顔は満足の體に見えられた。

我校の運動會

實科三年 中村 ヨシ

み空は高く氣も澄みて、秋ももなかの空の色。君の御稜威の高ければ、雨風常にとゞのひて、千町の稻田波を打つ、かゝる時しもたゞひなき運動會によき日ぞや。

開校記念菊花會

本科四年 椿 マス子

雁の聲する晨毎に寒くなる昨日今日、我が校にては去ぬる霜月三日第七回目の開校記念菊花會を開催せられたり。校内は菊花もて飾られ、昨日まではさまであやかならざりし學校は、一朝にして黃菊白菊床しの色を争ふ玉殿と化し、永久に發展し行く校の盛大を語り顔なるもうれし。當日は午前八時より開校記念式舉行せられ、校長先生より、いとも懇切なる訓話を承りて、無量の感に打たれ、花の如き美德を發揮せんことを期しぬ。閉式頃より參觀人の數は漸次増加し、午後一時二時頃は最も多忙を極め、案内者たる寄宿舎生は、一分時も休む暇なき程なりき。

東階上は三年生の活花にて、一つは中菊の九本を活けられたる、一つは小菊を根々に用ゐられたる等皆それぞれ趣ありて、日頃の師の君の御教導もさこそ察せられたり。講堂を横ぎり西階上に到れば二年生の活花あり。皆七本の大輪の花を

南の園に急ぎ行く、少女の姿愛らしき。

やがて開會ともなれば、君を壽ぐ君が代も、目出度く唱へ引つゞき、學校長の御教を、

深くも胸にきざみつゞ、定めぬ席に打ち集ふ。かたみに睦むその中に、いかでかくれをどらんやと、どり／＼競ふその状は、春にあらねど蝶の如、結びつどけつ進み行く。

いと勇しき光景なりや、接待掛ねもどるに、來賓方をもてなすは、さすがに少女の學び舎ぞ煙火のあがるも面白く、實にも愉快な運動會、規律正しき教にて、ふひ足なみも打揃ひ、

少女子ながら高飛は、身のためなりどうなづかる。昔を今もしぬびてぞ、とる薙刀にしめだすき、心ゆるがぬ有様は、やがて頼もし武士の妻。見物人は山をなし、他校生徒席うつむ、

母校の妹のなつかしや。舊師の君も居ますらんいつも變らぬ師の君の、慈愛の深き言の葉に。元氣をふるひたこしつゞ。身をはかたむる今日の日よ、園には菊の花咲きて、千秋變らぬ香に匂ふ。

(終り)

活けられしが、その活方と色の配合と相調ひ、上下二段に並べられたる様まことに雅麗なり。又階上の壁に菊花もて作られたる模様の、儂なる姿鏡に影の映じたる美しさ、繪にも文にもあらはしがたし。階下は一年生の活花と我等が夏休み中に考案せし廢物利用の製作品の陳列所なり。一覽して新築校舎に到る。此處には補習科生の活花あり。流石は本校の最上級だけありて、花の活方より水上げの方法まで、一つとして悪しき所なく、活けられたる花と活くる器とよく調和したる等、その美觀いふべからず。室の中央には由緒も深きハート形の花輪も作られて、人々の眼を惹くも嬉しき極みなり。

明年よりは、此の開校記念菊花會に、音樂會、學藝會も併せ催せらるべき由承れば、さぞ盛大なる開校記念ならんと今より樂まる。嗚呼待たるものは來秋の菊花會にこそ。

ももう夏らしい氣分が充滿した。やがては裏の板の木にも蟬の聲がやかましくなるであらう。(終)

初夏の晝食後の休憩

補習科 鹽見 愛江

蒸暑い初夏の風は三百に余る友達の袂を微かに往來した。まるで温室にでも入つた様に吹き來る風は厭に生温い。かうした中に晝食を終へた多くの友ごちは三々五々眩い日光の直射するグラウンドに或は農園にと向つた。瑞々しく茂み合ふ諸種の野菜も今は葉に含む水分を太陽に奪はれた様に仰向いてじつとして居る。温い光線の恵みを受けて心ゆくまで成長しようとする彼等植物の可憐さよ。公平な光線は一樣にやがて大いなる實を結ばんとして居る果樹園にも不遠慮に照しつけて居る。折々訪れる微風に濃ひ緑の葉が揺れる。飽くまで伸びようと努力する梨桃杏等の木に各々可愛らしい青い實が地に向つて垂れて居る。ふと目を轉すれば今や蒼空のもとにテニスに熱中して居る活動家

初夏

本四 陶山ミサ子

葉櫻の緑が大分濃くなつて、蛙の聲も高くなつた此頃こそ、四季の内が一番活氣に満ちたシーズである。霞の中に眠つてゐた六甲山の峰が、頂の方から次第／＼にコバルト色となつて、快活な雄々しい姿を野末遙に現した。山の端近い遠くの村は未だ淡墨色にばかされて、はつきりとは見えぬ。私はこのフレッシュな光景に時のたつのも忘れて、恍然として見詰つめた。折しも横道を通る牛乳屋の鼻唄が、車の軋るにつれて美妙的な音樂とも聞える。

キラ／＼と光つてゐた葉末の露が乾く頃から、そろ／＼暑くなる。南向の日當の好い椽側の障子にさつきから蠅が四五疋ホトホトと豆太鼓を打つてゐる。初夏のやゝ暑い太陽が庭の隅々まで行きわたつて勤勉な蟻はもうさつさと餌をあさつてゐる。軒に吊された籠が吹くともない風にゆられて屈託氣にユラリ／＼とゆれてゐる。何處を見て

もある。グラウンドの側の少し高い堤に鬱蒼たる木蔭に光線を避ける人もあり、廣く地上にまで這はうとする藤の葉蔭に楽しく語ふ人もある。露の様な汗と諸共に活動しつゝある人と、静止して是等の人々との對照が妙に面白く感ぜられる。高い二階の日蔭に包まれて今を盛りと青く繁るクローバーに視線を投げた。この愛らしい葉の上に、細長い莖の先に、双色彩を取り去られた白い可憐の花が寂しく微笑んで居る。廊下の片端から妙な音樂が絶えず流れて居る。蒸暑い正午の寂莫を破つて。その強くゆるく響く音色に憧れつゝ、楽しい春の夢見る様な氣持になつた併し春はどうに逝つて居るのであつた。噫々名残ある春なるよ、折しも校舎全体に響き渡る始業の鐘は流石に鋭く障氣を備さんとして私共に強く刺戟を與へて呉れた。

夕暮

補習科 鹽見 愛江

湯止りのはんのり赤くなつた私は、はた／＼と出

で縁側に立つた血液の循環の盛なせいか、今宵は殊に清々しい。ふと見上ぐれば果てしない大空には淡い灰色の暮雲が横たはつて居る。所々雲が切れたと見えてその隙間からは限りない天空が望まれる。その叢雲絨の様な空の下に、満るばかりの常盤木も今はさながら夢に眠れる如く茫然と浮立つて居る。まるで墨繪の様美しく、夕暮の空に映つて居る。晝間の強い光線に意氣銷沈して居た木々も今は再び生々たる元の状態に復して居る。さうして涼しい夜露に濡らされるのを待つて居る様に若い枝さへも動かない。四邊は只寂として一物の耳目をさへざるものもない。正午は頭上よりさしかけて居た、太陽も今は、西山に影を潜めてその余光をも認めることが出来ない。只刻々として夜の國へ突進しつゝあるのである。赫々たる太陽の光を去つた夕暮れの世界！噫何たる寂寥ぞ！まるで眼前にひらめく希望を失つた様に寂しみを感ずる。日ある内はさしも感じなかつた地面までが今は殊に白々と浮き出て居る。折々輕風颯と梢を撻へば静止から目ざめた様にさら／＼と音立て

ゞ皆一様に風の方向に靡くのも流石に従順らしい。かくして一風去つて又來る、私はしみ／＼と暮行く空を仰ぎながら、只一人茫然と優しい風に撫でられつ分けて袷元の涼しさに痛快を感じつゝ尙いつまでもそこを去らなかつた。いづこよりともなくガア／＼と暮雲の漂ふ空の下に鳴き合ふ蛙の音も、一しきり聞ゆる。蛙よあはれ汝が呼ぶは雨か友か。はた逝きし春を歎きてか。時に一聲ブーンと傍近く聞より闇へ通過する蚊もあつた。夜の闇は刻々とせまつた寂として静けき初夏の夕暮れ、水草近く飛び交ふ、二三の螢も一入哀れであつた。

亡友安野花子嬢

實科三學年 澄川 孝子

由來會ふ者は離れ、集る者は散す。蓋し數の免れざる所なり。而して會ふ程喜ばしきはなく、散する程悲しきはなし。况や幽明界を異にして、花に詠じ、月に嘯くの時なきに於てをや。噫我、貴

女を失ひ言はんと欲すれども言葉なし。哭せんと欲すれど哭する能はず。悲しい哉、痛しい哉

あゝ花子嬢、貴女は早や此の世の人に非ざるか。我今に及んで、いかで貴女の死せるを想ひ得ん。夢か現か。回顧すれば、十年の昔始めて小學校へ入學せしより、高等科第一學年まで、級を同じうし、且に夕に手を取り、貴女が喜びは我が喜び、我が憂は貴女が憂ひ、異身同體滿七ヶ年の樂しき年月を過せり。然るに花に嵐、月に叢雲の世の變、世事意のまよにならぬこそ口惜しけれ。貴女は小倉高等女學校に籍を置き、我は舊の如く明倫小學校に通學すべく袂を別てり。爾來貴女を懷はぬ日とてはなかりき。

貴女は實に熱心なる人、情あつき人、眞面目なる人なりき。又膽力に富み、頭腦明晰にして、尋常科第一學年より我等の組の級長をなし、よく級のために赤誠を以てつくされ、他級の模範となるまでにせられしは皆貴女の力なりしなり。而して一方に於て、趣味の人として筆曲茶の湯等にも堪能なりきとさく。身體亦よく發達し、級中身長、

體重共に肩を比ぶるものなく、顔貌稍々長く、眉秀て、口しまり、麗美といふよりは、寧端麗なりきとやいふべからん。常にコバルト色の袴をひくゞ穿ち、舉止甚だ快活なりき。

尋常科第六學年在學當時、郡の體育會ありて、級の選手となり、他校兒童と競走して優等を得られしも貴女なりき。されど少しも高慢らしき色は見えざりき。

昨年十一月、貴女、流行性感冒にかゝられたるよしきゞぬ。されど書を寄せて、「冬休みには秋に歸り、積る話を打語らはん」と美しき筆跡にて書かれたり。かゝれば我は只其の容體を問ひたるのみなりしなり。而して心中、冬休みには無事に好成績を得て、歸萩せられん事を祈りぬ。

十一月十三日一封の書状あり。而もそは貴女の手跡にあらで、母君の水壺の跡なりき。喜びて手に取りしに、圖らざりき、貴女が逝去の報ならんとは。我其の報に接したる瞬間、茫然として身の此の世にあるを忘れたり。其の夜更け、萬類死して、四隣寂として聲なき時、貴女が文ごもかい集

め、ありし昔の面影等思ひ起せば、萬斛の悲涙襟をうるはずを覺ゆ。げにや朝露の如きたのみなき人の命とは、誰がいひそめけん。

世に文明の利器てふものもて、貴女が靈魂に接するを得ば、我は其の價の厚薄多寡を論せざらんものを。

あゝ十一月十日、何といふ凶日ぞ。

貴女が病かくも重かりしをきまば、一の慰安の音信なりともなすべかりしに、而も貴女が永眠につきたるだに知らずして、靈前に一枝の花をも手向けざりしは、恨みてもあまりあることなりけり。さるにても貴女は現世のはだしを脱し、紫雲の來迎を待つて、西方に向つて旅立たれ、我が身は生死長夜の夢を見て、紅塵穢土の巷に迷ひ、復貴女の風手を見るを得ず。嗚呼悲しい哉。痛しい哉。



本校記事 (會報部)

大正八年六月より
大正九年七月に至る

一、大阪毎日新聞社通俗教育講演

六月十六日午後、大阪毎日新聞社社會部副長橋詰良一氏來校し、通俗教育講演をなす。要領左の如し。

予は大正五年三月大阪毎日新聞社の婦人記者と同道して來校せしことあり。爾來本校のことは最深く印象に存し居りて懐しさに堪へず。先回は、當校の生徒諸子は名譽ある歴史を有する敷地に出でたるは、實に幸福にして又責任の重きこと」を語せしが、今回とても講演の主旨は、これ以外には出でず。維新當時幾多の偉人傑士を輩出したるは此の地の大なる名譽なり。其後に於ても、先輩諸子が歸省せらるゝに際しても、常に後進者を子の

三、水泳講習會

七月十七日より全月三十一日まで菊ヶ濱にて本校生徒水泳講習會を開催し、講師として佐波郡視學荒川蕩龜氏を招聘したり。講習人員百八十名あり其中にて最初に浮び得るものは僅に十數名に過ぎず。殊に水泳講習は本校最初の催にして成績如何と氣遣ひしも、講師の指導のよるしさと、講習員の熱心とによりて、終には五間以上泳ぎ得る者百餘名に達し、其他の者も殆んど全部浮び得るに至り、頗好成绩を得たりしは、海國の女子として誠に喜ばしきことなり。

四、ユンケル教授來校

九月三日、河添の瀧日氏邸に來泊中の、第一高等學校教授ユンケル氏(獨逸人)及同夫人(生國は米國)は、瀧口吉良氏及同氏令息吉春氏と共に來校して、本校生徒に對し、ユンケル氏は英語を以て講話をせられ、瀧口吉春氏之をいど明快に通譯せられき。其の要領は教の間に中に載せたり。夫人は流暢なる日本語を以て頗る趣味ある講話を

二、講和祝賀式

大正三年八月以來五ヶ年間にわたりて慘憺を極めたりし大動亂は、本年六月二十八日佛國ヴェルサイユに於て講和條約調印済となりて、平和克復となりしは、世界人道のため、まことに慶賀すべきことなり。本校に於ても七月一日講和祝賀式を舉行し、式後、志都岐神社に參拜して祝意を表したり。

如くに思ひて誘導し獎勵せらるることは忝きことなり。若し現時の人にして先輩のことを自慢することにして、之が後繼者を出すこと能はずば、之大に哀むべきことなり。先輩の遺し授けられたる黄金作りの簪を冠れる諸子の頭は、責任の重きことを感ずるなり。今後如何にして先輩偉人の後を繼承すべきか。此も維新の際の如くに政治上に於て、あれ程に盡すを得る場合はあるまじと思はる。故に今後は當地より大に海外に雄飛して國威を發揚する人が多く出られたきものと希なふり。諸子よ、責任を自覺して大に努めらるべし。

せられたり。其の中の一節を左に掲げむ。

予は明治六年に日本に來れり。尙幼き時なりければ其後所々の學校にて修養せしも、當時適當の學校の少きため勉強に困難せり。十七歳の時より或女學校の英語教師となりたることもありしが、日本語の研究を今少しよくなし居たらばと思ふ。然れども年取りては勉強中々困難なり殊に語學は年若き時にあらざれば困難なるが如し。諸子は年齒尙若ければ此の機を逸せず大は勉強せらるべし。云々。

五、齊藤校長、全國高等

女學校長會へ出張

齊藤校長先生は十月十三日出發上京、全國高等女學校長會へ出席し、全月二十九日歸校せらる。而して十一月一日の月頭訓話に於て、宮城拜觀の榮を得たりしこと、及び第二皇子淳宮殿下陸軍幼年學校に於て御勉學の御模様など話し聞かされたり

六、西比利亞出征軍慰問袋

十月十七日愛國婦人會に托し、西比利亞出征軍へ

本校職員生徒一同より慰問袋二十個を繕る。手拭を縫ひて袋となし、之に塵紙、齒磨粉、横磨り、鉛筆、ノート、菓子、煎豆、及び本校生徒の描ける繪葉書四枚宛を入れたり。

七、校外教授

本校に於ては春秋二回郊外遠足を行ひ、春季には身體の鍛練的修養を主とし、秋季には知的修養を主として近傍歴史、地理、理科等に關する實地觀察をなさしむることとせり。

十月十八日例により、左記の如く、秋季の郊外遠足を行ふ。

第三學年

電燈會社 郵便局 響海館 區裁判所

第二學年

弘法寺蔬菜園 前原一誠墓 二孝子及其墓所 製氷會社 泉流山製陶所 越ヶ濱明神池 笠山噴火口

第一學年

山縣公銅像 甘棠園 桂公舊宅 製絲會

十一、第三回体育會

十月三十日第三回体育會を舉行す。午前九時開會豫定の如く、七十二回の體操競技等を滞りなく終了して午後四時に閉會す。來賓、父兄、一般觀覽者等二千五百餘名に達し、頗る盛會なりき。尙本誌文の園の中なる生徒作文運動會の記及我學校の運動會につきて一斑をうかがはるべし。

十二、開校記念式及菊花會

十一月三日本校開校記念式を舉行し、次いで開校記念菊花會を開く。尙之に附隨して、夏休中に於ける第三學年生廢物利用製作品中の一部をも陳列したり。來觀者多數ありて頗る盛會なりき。精しきことは、本誌文の園の中なる開校記念菊花會について知らるべし。

十三、玉木中佐來校

十一月七日陸軍砲兵中佐玉木正之助氏來校し、乃木大將に關する講演をせられたり。氏は玉木文之進先生の養子となられし大將令弟正誼氏の令息なり。講話要領左の如し。

補習科

越ヶ濱 大井

八、榮正彌民來校

十月十二日 宮城内に奉任せる荻町出身の榮正彌氏來校し、防長人の覺悟と題して有益なる講話をせられたり。

九、軍艦榛名寫真大額面

帝國軍艦榛名艦長海軍大佐伯爵佐野常羽閣下より帝國軍艦榛名の寫真大額面壹個を本校へ寄贈せらる。十月二十三日本校へ到着す。該寫真額面の縁の木材は軍艦長門製造の餘材を用ひ、縁の裝飾は金屬は長門艦司令塔製造の餘りを以て作られたるものなりとぞ。

十、文部省視學委員來校

十月二十七日文部省視學委員小松倍一氏來校し、歴史の授業を參觀視察せられたり。

先づ大將の作にして自筆なる左記掛軸を示さる

いねやらぬ人もあるらむ望月の

かたむくそらにこそろ残して

予の父は前原一誠の乱に死す。予は當時なほ母の胎中にありしが、其後十二歳まで明倫小學に通學せしも、乃木の内へ引取られて勝典保典と共に成長せり。

大將幼時、玉木文之進を訪ね來りて、私は身體が弱き故武藝よりも學問を修めて身を立てんと欲すといはれければ、玉木は、身體が弱くて武藝出來ずば、百姓になれどて、常に田圃につれ行かれり。

後大將は身体も強くなりたる故、明倫館に入りて學ぶ中、柔道をやりて手を折らせしに、玉木は其の健闘を賞して書籍を與へたり。大將の父十郎希次氏も玉木翁と同様に強き教育方法を施して大將を養成せり。大將が子供を教育することにも、幼時より自立自營の心を養成することに力められたり。勝典七才保典五才の時に只二人をして淺草見物に行かしめしことあり。乃木家に

大將の夫人はよく大將を助けられたり。大將が愚痴をこぼして自分は辭職するといはれし時にそれでは、陛下の御恩遇に對して濟みますまい。とて諫止せられたり。夫人の實家は薩州藩の御殿醫なりしが、宅地は三十坪、家は十五坪座敷は六疊に三疊位、それに兄弟七人ありといふ風にて随分難儀せられしなり。夫人は學問は深からざりしが、常識は非常に發達し居られたり。困苦缺乏に耐ふる志操堅固なりき。服装は儀式の時以外は木綿服にて質素を極めたり。割烹、給仕まで伯爵夫人自ら之をなせり。夫人が涙をこぼせしこと、は長男勝典の討死せし時着し居たりし鞆衣、軍服等に血痕の附着し居れるを、小行李より取出して「よくか役に立つてくれた」とて泣きしより外に見しことなし。夫人は人の前にて愚痴をいふが如きことはなかりき。夫人は甚子供好きの人なりき。

大將は第二旅團長の時、大演習を了へて歸る途に大島聯隊長を繩ノレンの中に導き入れて粗酒粗肴を食す。聯隊長其の故を問ふ。大將曰く「人

ては御飯は一碗のみ。而して食物に對する好嫌をなくするために、若し食殘しをすれば、之を盡すまでは、之と同様の料理を、全体へ何回にても出す。故に他人の迷惑を思ひて仕方なく食ひ、遂には嫌ひの物をも、よく食ふに至る。大將は或時、予十三才と勝典十一才保典(九才)とをつれて蕎麥居に至り、汝等の好きな物を食へると思ふ程取れ、といはれしにより、各澤山に注文して、終には之を食ひ餘せしところ、大將は之を食ひ盡すまでは明日までも、斯うして待つて居るといはる。子供等は困りて詫言を申せしに乘じ、教訓せられしことあり。又、朝は目が覺めると直ちに床を離れしめらる。目覺めても尙床中にあるは病人なりとて戒められき。親類の者が縁付く時には、先方の家風に合ふ様になれ。それには自分の嫌ひな物を好きになることなり。と教へられたりき。學習院にては、縁付けば左の三事を忘るなど戒められしことあり。一、先祖の命日を忘る。二、家政をよくことへのへよ。三、子供の教育に力をこめよ。

間はどかく贅澤なるもの故時々は、まづさものを食ひて腹を秘らしめざるべからず」と。大將は汽車にて三等に乗りしことなし。これ上よりの待遇に對して之を尊重するの意なりしなり。又英國、獨逸國等へ、伏見殿下の隨行として行きし時は、宿屋は最上等、馬車も最上等、洋服は常に新物を用ひたりき。これ國の體面を重んぜしによる。然るに自宅に居る時は甚質素なりき。

大將が凱旋の時、恩賜の金時計に金八千圓を添へてありしを、其の金を以て別に金時計を求めて之を人に配りたり。而して恩賜の時計は予に傳へられたり。(とて之を示さる)

大將は死所を得ることに心掛けたり。伊藤博文公の死をききて羨みたり。殉死の時は一ヶ月間に準備を遺恨なきまでにと、のへて、遂に見事に最後を遂げたりき。夫人の自害も實に見事なる死様なりき。

十四、松陰先生事蹟講話

十一月三十一日松陰先生事蹟講話會を開き、校長

先生より松陰先生の經歷の概要、及永訣の書、三妹に與へられたる畫翰等につきて御話ありたり。

十五、本縣知事夫人來校

赤十字社萩町分會又愛國婦人會萩町分會の總會へ臨席のため來萩せられたる中川本縣知事閣下夫人は、今村理事官夫人其他數氏と共に十一月二十三日午後來校し、校内を參觀せられたり。

十六、鶴臺先生夫人淑徳講話

十二月十二日瀧鶴臺先生夫人世良氏の命日に付、講話會を開き、校長先生より夫人の淑徳に關する講話ありたり。

十七、郡會議員來校

本郡々會へ出席中の小河郡會議長以下各議員は、岡村郡長及び在萩新聞記者と共に五十名許、一月十七日午前十一時來校せらる。本校にては南園館に於て茶菓を出し、講堂に於て短時間の學藝會を開催し、作法實習室に於て生徒の手に成れる畫食を供す。一同は午後二時過に退出せられたり。

十八、陸軍記念日

人の話によれば、元帥の母堂は途上にて出會へる際にも、襟を正して相對せざるべからざるの風ありしとのことなり。諸子は將來良國民を作り出すべき母として、温容と共に威嚴を保持して教育せられんことを望む。

十九、卒業證書及修業證書

授與式

三月二十日第八回卒業證書及第七回修業證書授與式を與行せらる。式に先だち、右卒業生及修了生をして、御聖影を奉拜せしめらる。式は午前十時より始められ、唱歌君が代、勅語奉讀、唱歌勅語奉答、證書及賞品授與、學校長訓辭、長官告辭(郡長代讀)、郡長告辭、來賓祝辭(小倉萩町長)、在校生總代祝詞、卒業生及修了生總代答辭、唱歌祝歌(在校生徒)仰げば尊し(卒業生修了生)等順次相行はれ、午前十一時三十分終了す。

今回の卒業生修了生數竝に受賞者數左の如し。
卒業生 八十五人(創立以來計五九六人)
修了生 十八人(創立以來計一三三人)

三月十日陸軍記念日に付午前九時より記念式を舉行す。校長先生より記念式に關する由來を話され河村一郎先生より日露戰役の大體と奉天戰鬪の概況及軍隊進撃の方法等につきて、詳細に話されたり正午より國司少將來校して左記要領の如く講話せられたり。

日露戰役當時、陸軍に於ける第一の戰功者は、大山元帥、兒玉參謀長、寺内元帥の三氏なり。

戰捷の原因多々ありと雖も、此の三氏の盡力の功多きに居る。此の三氏を生みし各母の如何に良妻賢母なりしか、察するに餘りあり。予は今寺内元帥の幼時及其母につきて話さん。元帥は元、壽三郎と稱し、吉敷郡平川村に生育す。予の兄、兼重金十郎は矢原村の人なり。平川と矢原の中間を流る、樵野川の河原に於て、兩者互に相對峙して醜白子供の大將となり、石投げ戰など爲し合へり。此の壽三郎も家庭に於て母に對する時は常に謹慎の体なりき。これ其の母々ケ子氏が壽三郎に對して温容あると共に威嚴のありしことを知るに足るべし。其の母堂を知れ

受賞者

- 操行善良者 二人
- 成績優良者 十三人
- 成績進歩顯著ナルモノ 三十一人
- 三ヶ年皆勤者 一人
- 三ヶ年精勤者 一人
- 一ヶ年皆勤者 二十九人
- 級長 七人
- 副級長 十四人

本日中川知事閣下より賜はりし告辭左の如し。

諸子茲ニ本校所定ノ課程ヲ修了シ卒業ノ榮ヲ荷フ諸子及諸子父兄ノ喜察スヘク本官亦欣快トスル所ナリ抑々國民風教ノ振興社會道徳ノ維持ハ之ヲ婦人ノ健全ナル思想ト崇高ナル信念ニ俟タルヘカラス古來我國民ノ誇トスル武士道ノ如キモ其一半ハ貞烈ナル婦人ノ力ニ依リテ發達セリト言フモ過言ニアラス今ヤ振古未曾有ノ大戰亂全ク終熄シ世界ハ改造革新ノ機運ニ際シ益々婦人ノ力ヲ要スヘキコト多ク國家社會カ教養アル婦人ニ期待スル所愈々大ナラントス諸子克ク自覺シテ深ク其本分ニ鑑ミ世運ノ趨勢ヲ察シ

テ新時代ニ適應スル良妻賢母タラムコトヲ念トシ自重自愛大ニ社會國家ニ貢獻セムコトヲ期シ以テ本校教養ノ趣旨ニ副フヘキナリ之ヲ告辭トス

大正九年三月二十日

山口縣知事從四位勳三等 中川 望

本日岡村郡長貴下より賜はりし告辭左の如し。

卒業生諸子ハ多年切瑳淬礪ノ効ヲ積ミ茲ニ本校ノ課程ヲ終了シ卒業ノ榮ヲ荷フ諸子及諸子父兄ノ喜ヒ察スヘキナリ本官亦衷心ヨリ諸子ノ卒業ヲ慶賀セスソハアラス蓋シ地方家庭ニ修養アル幾多中堅婦人ヲ加ヘタレハナリ
惟フニ高等女學校ハ中堅タルヘキ婦人ヲ育成スヘク女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ施スノ機關ニシテ諸子カ本校ニ於テ修得セル智徳ハ雖テ地方婦人ノ中堅トシテ其ノ家庭ノ教育ヲ感化シ郷閭ノ風俗ヲ善美ナラシメ國家ノ發展ヲ助長スヘキハ本官ノ信シテ疑ハサル所ナリ
今ヤ五星霜ニ互レル世界ノ大戰ハ終熄テ告ケ平和條約既ニ完成セリト雖モ國家内外ノ情勢ノ正

ニ變セシト共ニ婦人ノ任務ヲシテ益々重且大ナラシメントスルモノアリ望ムラクハ諸子進ムテ高等ノ學府ニ入ルト其家庭ニアリテ實務ニ從事スルトヲ開ハス均シク常ニ思フ此處ニ致シテ世界ニ對スル我國ノ地位ト國家ニ對スル自己ノ天職トチ自覺シ地方婦女子ノ中堅トシテ自ラ任スルコト深ク本校ニ於テ受ケタル教育ヲ基トシテ益々人格ノ修養ニ努メ知見ノ研讀ニ勵ミ常ニ浮華驕奢ヲ戒メ以テ之カ範ヲ示シ他日人ノ妻トナリ人ノ母トナリテハ克ク家ヲ齊ヘ子女ヲ教養シ良妻賢母タルノ名ニ脊カス其ノ本分ヲ完フセシコトヲ期スヘシ之ヲ告辭トス

大正九年三月二十日

山口縣阿武郡長從六位勳六等 岡村勇二

二十、阿武郡民力共進會出品

三月二十四日より明倫小學校に於て、本郡民力共進會を開設せらる。本校よりも教育參考品として左記の出品をなす。

生徒成績品

廿一、學校組織變更

本年一月の郡會に於ては、時勢の進展と本郡の狀態とに顧みて、本校の組織を高等女學校に改むる件を可決し、後、其の手續を了して申請中のところ、三月三十日の官報を以て左記の通り告示せられたり。

文部省告示第七十四號

山口縣阿武郡萩町ニ設置セル同縣同郡立實科高等女學校ヲ大正九年四月ヨリ高等女學校ニ變更シ山口縣萩高等女學校ト改稱ノ件認可セリ

大正九年三月三十日

文部大臣 中橋徳五郎

廿二、學則變更

本校組織に伴ひ學則を改正せらる。其中主なる事項は左の如し。

學科及修業年限

本科四ヶ年

實科三ヶ年

補習科一ヶ年

作文、習字、書取、圖畫、裁縫、手藝等にして、何れも相當に人目を惹けり。殊に手藝品の一部として、補習科生中數人の共作に成れる三枚重ね及び帯の刺繍は、精巧美麗なりとて人目をひきたり。又三年生の半襟の刺繍品は賣品として出せしは好評にて全部賣切れとなれり。

育児の研究

胎兒發育順序の模型十個、乳兒養便模型數種、其他育児に關する諸表類、繪畫、器具衣服等。

玩具の研究

玩具百八十點を蒐集し、これを嬰兒期の玩具、美情を養ふ玩具、觀察力を養ふ玩具、好奇心を利用して知識を進むる玩具、研究心を養ふ玩具、作業の興味を養ふ玩具、勇氣を養ふ玩具等に分類して出品したり。

安價經濟保健食料

安價經濟的にして、而も保健に適する食料五日分即ち十五種の獻立を各異にして陳列したり。

本科各學年の學科目及每週教授時數

學科目	第一學年				第二學年				第三學年				第四學年			
	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	每週時數	
修身	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
國語	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	
英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
歷史	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
地理	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
數學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
理科	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
圖畫	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
家事	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
裁縫	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
手藝	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
音樂	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
體育	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
實業	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
教育	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
計	三二	三二	三二	三二	三一	三一	三一	三一	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四	

實科各學年の學科目及每週教授時數は從前の通り
補習科の學科目及每週教授時數
修身二、國語五、家事五、裁縫一七、手藝三

體操二 計三四

生徒定員

本科二百人 實科百人 補習科三十人

入學及退學

本科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左記各號該當者トス

- 一、年齡十二年以上ノ女子
- 二、品行端正、身體健康ノ者
- 三、尋常小學校卒業又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者

實科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左記各號該當者トス

- 一、年齡十三年以上ノ者
- 二、品行端正、身體健康ノ者
- 三、高等小學校第一學年ノ課程ヲ卒ヘタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者

補習科ニ入學スルコトヲ得ベキ者ハ高等女學校本科若クハ實科ノ卒業者ニ限ル

第二學年以上ニ缺員アルトキハ試験ノ上補缺入學ヲ許スコトアルベシ。入學ノ許可ヲ得タル者

廿三、本學年の開始

大正九年四月十二日午前八時より入學式を舉行せられ茲に組織變更後の第一新學年は開始せられたり。

廿四、學科受持級監及各

學年生徒數（七月二十日現在）

一、學科受持（括弧内は科外）

修身	校長 先生
國語	中野 先生
習子、歴史、地理、教育	池上 先生
家事、裁縫、手藝	堀江 先生
數學、理科、地理	荒川 先生
裁縫、手藝	上田 先生
圖畫、裁縫、手藝	重本 先生
數學、園藝	安野 先生
體操、英語	長澄 先生
裁縫（茶儀、生花）	世良 先生
國語、歴史、地理	中津江先生
國語、作法、唱歌	安水 先生

進級及卒業

各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ操行ト平素ノ學業成績トヲ考查シテ之ヲ定ム、但學業成績ヲ考查スルタメ臨時試験ヲ行フコトアル

授業料

本科、實科ハ壹ケ月金壹圓八拾錢 補習科ハ壹ケ月金壹圓五拾錢トス 一月四月コアリテハ其月十五日限り、其他ノ月ニ在リテハ其ノ月五日限り、當月分ヲ納付スヘシ

(生花、茶儀)

(筆曲、但寄宿舎生に限る)

二、級監及各學級生徒數

上利 先生	三輪 先生
補習科	二二 副級監重本 先生
本科四年	五〇 堀江 先生
本科三年	五〇 荒川 先生
本科二年	五〇 世良 先生
本科一年	五〇 安永 先生
實科三年	四七 上田 先生
實科二年	五〇 重本 先生

廿五、先生の轉任及退職

河村タケヲ先生 大正九年三月十日附辭令を以て
愛知縣立豊橋高等女學校教諭に任せらる(本校
在職壹ケ年間)

奈良小千代先生 全年三月三十一日附辭令を以て
病氣退職せらる(本校在職三年六ケ月間)

坪野シヅ先生 全年三月二十六日附辭令にて退職
せらる(本校在職壹ケ年間)

田總百合之助先生 全年三月三十一日附辭令にて
退職となる(本校在職壹年八ケ月間)

藤野カネ先生 全年六月三十日附辭令にて退職せ
らる(本校在職六ケ年間)

廿六、先生の就任

荒川セイ先生 大正九年四月一日附辭令にて就任
せらる。

重本マサコ先生 全年四月十四日附辭令にて就任
せらる。

中津江延彦先生 全年七月九日附辭令にて就任せ
らる。

廿七、本校創立記念式

四月二十日本校創立記念式を舉行し、齊藤校長先
生及び中野先生より創立以來本校發展の様子に付
き詳細なる御話ありたり。尙式後小學藝會を開催
したり。

廿八、郊外遠足

四月二十九日郊外遠足を行ひ、川上村基盤岳に登
る。此の日春陽麗らかにして遠足に好適なり。午
前六時三十分運動場に整列して、校長先生の訓話
を承り、全四十分出發す。積東村中津江に出で、

それより川上村立野に到り、左折して中ノ原、惣
ノ瀬を過ぐ。このあたり山里はなほ櫻花満開にて

老鶯の聲もしきりなり。溪流のほとりには折々河
鹿の美しき聲も聞えていと快し。惣ノ瀬より峻し
き山の尾傳ひに基盤岳に登る。一同が頂上に到着
したるは午後一時なりき。此の近郷最高の山頂に
立ちて展望すれば、東南方面は山岳重疊して本郡
の山又山の地勢を知るべく、西北方は渺茫たる日
本海の烟霞の中に見島、六島などのほのかに匂ふ
景色は、實に得もいはいはれぬ眺なり。暫時休憩の後
列をど、のへて西の方鳥越に下り、午後五時松本
中ノ倉人丸神社の前に歸着し、此所にて別れを告
げ、それより途々便宜の所にて列を離れて歸宅せ
しむ。一日の校外遠足、知識方面より見ても体育
上より見ても中々に多大の効果を收むることを得
たり。

廿九、忠正公勤王事蹟講話會

五月十七日忠正公五十年目の御命日に際して勤王
御事蹟講話會を開き、池上先生より、忠正公が尊
王攘夷、倒幕、王政復古、及版籍奉還等につき、

卒先して王事に盡されしことの講話ありたり。

三十、松陰先生記念講話會

五月二十五日は松陰先生江戸搬送の際出立せられ
し日にして春祭日なり。此日を以て記念講話會を
開かれ、齊藤校長先生より、松陰先生の御事蹟に
關する御話あり。それより各學級より一名宛を選
出せしめて、松陰先生に關し豫て研究したる事項
を發表講演せしむ。何れも有益にして松陰先生の
御高徳を欽仰するによろしき講話なりき。

卅一、海軍記念日講話

五月二十七日海軍記念式を舉行し、校長先生より
日本海々戦のこと及我海軍發達の状況等について
の御話あり。翌二十八日海軍中佐粟屋雅三氏を聘
して記念講話會を開かる。中佐は日本海々戦の大
要、軍艦に於ける水雷、日露戰爭後に於ける軍艦
の發達、軍艦内に於ける生活等につきて懇切に話
され、尙外來思想等に或はす我國固有の美德を發
揮すべく話されたり。

卅二、本年の養蠶

本校養蠶は毎年相當の効果を收めつゝありしが、本年は殊に良結果を得たり。本年は一化性支歐交配種のザラ種一匁を飼育せり。五月十三日掃立をなし、自然育により、六月十八日上簇を終る。生繭上等二貫二百匁、下等六百匁を得たり。飼育は本科四年と實科三年との擔當とし、晝間は通學生、夜間は寄宿生、之に當り、安野先生指導の下によく其の任をつくせり。之に要する桑葉は學校桑園のものにて全部を給して尙餘ある程なりき。

卅三、理科教室改造及圖書

器械器具等購入

近來理科教授改善の氣運勃興し、各學校共に其の設備に努むるに至れり。本校に於ても之に應ずる

ために理科教室を改造し、生徒をして各自に多く實驗せしむるの設備を要すること切なりき。之と共に教授用參考書竝に器械器具等の不備も亦本校の缺點なりしなり。然るに是迄本校創立費及擴張費として數萬の金員を寄附せられたる久原家は昨年又六千圓の大金を寄附せられたり。本校は之によりて理科教室を増築改造し、机、腰掛、戸棚等をはじめ、器具、器械等を購入し、生徒各自をして多くの實驗をなさしむるの設備をなす。口繪に載せたるもの即ちこれなり。又各科の教授用參考書をはじめ、器具器械等をも多數に購入したり。これがために本校教育の改善進歩の上に多大の利益を得たるは、吾人の深く感謝するところなり。



本會記事 (會報部)

大正八年六月より
大正九年七月に至る

一、皇后陛下御誕辰祝賀式及

新入會員の歡迎會

大正八年六月二十五日午前九時より 皇后陛下御誕辰祝賀式を舉行せられ、皇后陛下の御眞影を奉拜し、校長先生より、陛下の御生立、學校時代御健康にして御成績の優れたまひしこと、恩義を重んじ、勤勞を貴ばせたまふこと、養蠶に御熱心なること、教育に御心を注がせたまひ、仁慈の御心厚きことなど、精細に話しきかされ、一同は陛下の御高德を欽仰し奉りたり。

此の佳辰を卜して、午前十一時より南園會新入會員の歡迎茶話會を食堂にて開催せらる。校長先生の開會の御辭に次いで、先入生徒總代の新入生に對する歡迎の辭、新入生總代の先入生に對する接

接ありて、それより餘興にうつり、各學年より選出せられたる者の唱歌、談話及び教員の詩吟等あり。午後〇時二十分歡呼聲裡に開會を告げられたり。

二、第六回同窓會

大正八年八月廿八日例年の通り、なつかしき母校に於て第六回同窓會は開かれぬ。

九時半の鈴のひびきにつれて一同講堂に集りぬ。先づ山本幸さんの開會の辭ありて、君が代二唱の後、靈位禮拜を終へ、校長先生の御話あり。志自岐丸廻難の際、石川指揮官外下士卒に至るまで各々責任を全うせられて職に殉じられたる、又同夫人の留守居に於ける雄々しき覺悟などの御話あり。満場寂として深く感動したり。尙現代女子は責任觀念次第に薄らぎ行くの感あり。よろしく戒むべきことなりと諭さる。次に堀江先生より「伸び上がる人と伸び上らない人」といふ題にて、研究心の必要なることを話されたり。時に午前十一時なり此の時山本さんより「所々に賣店を設備しをきた

れば各自之につきて休憩せられたし」この挨拶ありき。久々振りに相寄りたる同窓の姉妹は積る嬉しさを小さき袖につまみかねたる風情にて、三々五々打ち連れて樂しげに思出ある校庭をさまよひぬ。

賣店として我等の大好物たるお汁粉屋は割烹教室にあり。室内は美しく裝飾せられ、卓上には涼しげに草花を活けられたり。數人の係の方のエプロン姿も甲斐々々しく見受けられたり。後より後より入來る友垣に振れ舞はるる様いと忙はし。此所を出でて庭園に行けば、東屋にはラムネの賣店ありて、多くの人は足をどよめて冷きラムネに暑さを忘れ、緑陰に憩ひて清き流れを見入りつゝ、在校當時を語り合ふも樂しげなり。控所には果物店あり。うささうな梨、美しさ林檎など並べられたり。第四裁縫教室には菓子店も開かれたり。廊下を行けば第一裁縫教室には、擬古動物園ありて種々の奇抜なる物が陳列せられたり。中にも一寸法師の懷中時計とて、二十二形の大時計に手綱の如き大紐を付けられたるもの、又廣き紙に狼(大紙)と記

されたるものなどありて、いと興あることどもなりき。

理科室には二見か浦の日の出を作業服にて作られたり。正午を報する鐘の音に、思ひ／＼の處にて親しき友と樂しき食事をなしぬ。はる／＼相寄りし友さちの語らひ、なかく／＼に盡させじ。午後三時に近きころ餘興室とせられたる作法室に集りぬ。中野先生の詩吟、皆々感じ入りぬ。次に師井さんの八雲琴彈奏あり。三輪先生と倉田さんの三味線に琴の合奏、竹内さんの琴、師井さんと倉田さんの琴合奏、三輪先生の琴などありき。山本さんの名所づくしのわかば、上下に手拭を冠りて、いとおもしろく、世界のはてまでを演ぜられ、これにて餘興は終りとなりぬ。最後に中野先生より、同窓會の將來の發展と會員各自の修養とにつきての御訓話あり。下間さんの會につきての感想談ありき。これにて閉會となる。時に午後五時、夕日斜に南園の庭を照しぬ。(一同窓會員記す) 久原家へ左の電報を發す

「同窓會に於て北堂の靈位を拜す」

米原前校長先生よりの祝電

「盛會と御健康を祝す」

米原先生へ御禮の電報

三、卒業生修了生の送別會

三月二十日卒業證書修了證書授與式の後、午後二時より食堂に於て卒業生修了生の送別會を開く。先づ在校生總代の送別の辭ありて後、卒業生總代修了生總代、借別の辭あり。それより各組より選出せられたる者の談話唱歌等ありて、午後三時閉會せられたり。

四、皇后陛下御誕辰祝賀式及

南園會學藝會

大正九年六月二十五日午前八時より 皇后陛下御誕辰祝賀式を舉行せられ、校長先生より陛下の御高德の數々を話しきかされたり。全九時より南園會の學藝會を開催せられたり。

篤志者芳名

一、本校へ篤志を以て寄贈せられし金品並に御芳名

(大正八年六月より大正九年七月まで)

金六千圓

本校理科教室改造並に教授用圖書器

械購入費として

兵庫縣武庫郡本山村 久原清子氏

大村益次郎先生事蹟 壹冊

椿郷東分村(東京) 山根 正次氏

新圖書教科書 卷一二 二冊

圖書教授法 一冊

圖書教科書 十三冊

萩町大字平安古 田總百合之助氏

オールド、イングリシ、コスチウムス 一冊

萩町大字江向 益田 元亮氏

會 員 名 簿

半 鐘 壹個

樺村冲原 石川 安吉氏

掛軸(原采蘋書)

壹軸

萩町江向 佐々木仁造氏

ヘルマンビドロテヤ 三冊

第一高等學校教授 ユンケル氏

手アブリ 壹個

白石 信夫氏

二、南園會へ篤志を以て寄贈

せられし金品並に御芳名

(大正八年六月より
大正九年七月まで)

金拾圓 本校卒業生故秋山キク氏(舊姓)夫君

秋山 新藏氏

金參圓 萩町平安古 田総百合之助氏

金五圓 萩町古萩 竹内 好子氏

毛利元就公御幼時の御筆扇面 壹本
毛利萬壽姫様御筆法華經普門品第二十五、箱入壹
卷

萩町堀内

繁澤寅之助氏

明治天皇寫眞歴史 壹冊

萩町濱崎

山中 繁氏



會員名簿

(大正九年七月)

特別名譽會員

兵庫縣武庫郡本山村(逝去) 久原文子氏
 全 久原房之助氏
 全 久原清子氏

特別會員

阿武郡萩町江向(大津郡三隅村) 齊藤彦一
 全 河添(吉敷郡嘉川村) 中野貞介
 本校教員住宅(全郡秋穂二島村) 池上岩太郎
 全 萩町江向 堀江ウタコ
 本校教員住宅(長崎縣北松浦郡平戸村) 荒川セイ
 全 全平安古 上田チヨ
 本校教員住宅(佐波郡出雲村) 重本マサコ
 全 全平安古(阿武郡彌富村) 安野章
 全 全江向(阿武郡三見村) 長澄市衛
 全 椿村 世良ハツ
 全 萩町惠美須町 河村一郎
 全 全濱崎 中津江延彦
 本校寄宿舎(吉敷郡吉敷村) 安永スエ

名譽會員

兵庫縣武庫郡打出村 齊藤 靄 太氏
 兵庫縣神戸市奥平野 田村市郎氏
 玖珂郡岩國町 松浦 誠氏
 阿武郡明木村 瀧 瀬 吉良氏
 佐波郡防府町(豊浦郡勝山村) 榎 俊 治氏
 阿武郡萩町(大正八年十月死亡) 増山 宗 史氏
 阿武郡萩町(吉敷郡大内村) 岡村 勇 二氏
 大阪市東區生玉町六十一番地 岡 十 郎氏

阿武郡萩町吳服町
 全 東田町
 全 全
 三輪マサ

舊特別會員

阿武郡佐々並村(死亡)
 厚狹郡役所
 (豊田) 鹿野郡立女子師範學校
 (松本) 鹿野郡立女子師範學校
 滋賀縣立女子師範學校
 福井縣立武生高等女學校
 兵庫縣赤穂實科高等女學校
 濱賀縣長濱實科高等女學校
 福岡市九州大學工科在學
 阿武郡萩町土原
 全 全 河添
 全 德佐村
 東京市私立共立女子職業學校
 安藤サエコ

名古屋市私立東海中學校
 阿武郡萩町平安古
 (井上) 石川縣立第一高等女學校
 (沼田) 大阪府北河内郡立
 (齊藤) 東京府下巢鴨一二九四
 山口縣室積女子師範學校
 阿武郡萩町河添
 山口縣都濃郡立都濃高等女學校
 山口縣佐波高等女學校
 (八木) 埼玉縣北埼玉郡
 (田村) 長崎縣長門郡立高等女學校
 (坪野) 和歌山縣有田郡廣
 福井縣實永中町二五
 愛知縣立豊橋高等女學校
 阿武郡萩町平安古
 山田兵吉
 竹内新三郎
 飯塚マツコ
 北川 恒
 大谷タカ
 田中タカヨ
 田村 繁
 米原 鶴太
 本永 旭
 井桁コサミ
 進藤ウメ
 三崎シヅ
 奈良小千代
 河村タケヨ
 田總百合之助
 藤野カネ

會員名簿

(大正九年九月)

特別名譽會員

兵庫縣武庫郡本山村(逝去)
 全 久原文子氏
 全 久原房之助氏
 久原清子氏

特別會員

阿武郡萩町江向(大津郡三隅村) 齊藤彦一
 全 全 河添(吉敷郡嘉川村) 中野貞介
 本校教員住宅(全郡秋穂二島村) 池上岩太郎
 阿武郡萩町江向(埼玉縣秩父郡) 関田 貢
 全 萩町江向 堀江タタコ
 本校教員住宅(長崎縣北松浦郡) 荒川セイ
 阿武郡萩町江向(長崎縣佐世保市) 石橋 孟
 全 全 (玖珂郡玖珂村) 本林脇(童子)
 全 全 平安古 上田チヨ
 全 全 平安古(阿武郡彌富村) 安野 章
 全 全 江向(阿武郡三見村) 長澄市衛
 全 樺村 世良ハツ
 全 萩町惠美須町 河村一郎
 全 大井村 伊藤通利
 全 萩町土原 藤田直人

名譽會員

兵庫縣武庫郡打出村 齊藤 鏡 太氏
 兵庫縣神戸市奥平野 田村 市 郎氏
 玖珂郡岩國町 松浦 誠氏
 阿武郡明木村 瀧口 吉 良氏
 佐波郡防府町(豊浦郡勝山村) 榎 俊 治氏
 阿武郡萩町(大正八年十月死亡) 増山 宗 史氏
 阿武郡萩町(吉敷郡大内村) 岡村 勇 二氏
 大阪市東區生玉町六十一番地 岡 十 郎氏

本校卒業生(吉敷郡吉敷村) 安永入工
 阿武郡萩町平安古(大津郡) 中村モ、工
 阿武郡萩町吳服町 上利政三
 全 全 東田町 中村彌兵
 全 全 豊川島 原田梅子

舊特別會員

阿武郡佐々並村(死亡) 松田ハル
 厚狹郡役所 三隅要之助
 (豊田) 鹿島郡鹿島町外武蔵 植村秀枝
 (松宮) 東京市麹町区平河町五〇 細居シヲ
 福井縣立武生高等女學校 高田 哲
 兵庫縣赤穂實科高等女學校 河原 夏
 滋賀縣長濱實科高等女學校 前田直子
 福岡市九州大學工科在學 坂口五郎
 阿武郡萩町土原 山内清次
 全 全 河添 中野スエ
 全 德佐村 藤井二郎
 (安藤) 東京府西條鴨町 今井チエコ
 字也袋 三二七

校外會員

名古屋私立東海中學校 山田兵吉
 阿武郡萩町平安古 竹内新三郎
 (井上) 石川縣立第一高等女學校 飯塚マツヨ
 (沼田) 大阪府北河内郡立 北川 恒
 (齊藤) 東京府下巢鴨一二九四 大谷タカ
 山口縣望積女子師範學校 田中タカヨ
 阿武郡萩町河添 田村 繁
 山口縣佐波高等女學校 米原鶴太
 山口縣都濃郡立都濃高等女學校 本永 旭
 (八木) 埼玉縣北埼玉郡 井桁コサミ
 (田村) 下関市外武久園 進 藤 ウメ
 (坪野) 和歌山縣有田郡廣 三崎 シヅ
 福井縣寶永中町二五 奈良小千代
 愛知縣立豊橋高等女學校 河村タケヨ
 阿武郡萩町平安古 田總百合之助
 阿武郡山田村 藤野カネ
 兵庫縣尼崎市 佐本マサコ

第一回卒業生 (大正二年三月卒業)

名 本 近 况
 ○伊藤 コツ全、全全 阿、白水尋
 ○松本 早知全、全東田町(補) 常在高等小學
 ○梅田カヲ、宮本全、萩南片河(補) 朝鮮初音
 金田 下キ、大、瀬戸崎
 ○大草政子(山本)阿、萩平安古(補)死亡
 ○山本 幸全、全濱崎(補)
 ○倉田 チヨ全、全魚店町 山口町上金古
 津田 エン全、全東田町 工務局(補)
 ○竹内 ミツ全、全惠美須町 三島二〇、六
 ○河崎スエ(中島)厚狭郡舟木町字小野(補)
 ○高垣 清子全、全古萩 鹿島市大手町九丁
 田中 冬子全、榊村(死亡)
 ○藤田ミヅ子全、大井村(補) 神三市事務 馬場町三三三

山下歌子(小澤)全、榊村 養正長斗六堡
 ○久保田ミサコ全、榊郷東分村(補) 六郎團所
 後藤ハル(田邊)全、萩惠美須町 朝鮮鏡南
 ○永井ミツ(村田)全、榊郷東分村小畑(補) 宇田尋常高
 ○金子 ハツ全、大井村 萩城西界洞窟
 ○福岡サト(藤田)全、福川村 朝鮮大船外町
 ○野上 サダ全、萩土原(補) 小倉市外中島
 ○倉田 節子全、全西田町(補) 西間方小學校在職
 ○藤井 キク全、德佐村 東京大久保百人町
 ○平田トシヨ全、萩、熊谷町 在下關市
 ○馬庭タマヨ(金子)全、福川村(補) 萩濱崎
 ○松井チヨ(河上)全、萩橋本(補) 郵便局官
 津田彌代(金子)全、榊郷東分村香川津

氏 名 本 近 况
 ○上原マサ(大岩)阿、萩、新堀宅 萩南古萩神代
 ○時藤シナ(松村)全、全、江向 丁目池永石炭
 ○阿 レン(大崎)大、三隅村 阿、紫福村
 桂シヅエ(國司)阿、榊村 山口町四政寺
 ○有田ミサ(阿部)全、全土原(補)
 ○多田 マツ全、榊郷東分村(補)
 上田 トミ全、萩河添 東京津原郡地上
 ○石津喜與子(中村)全、全東田町 米市外三井
 ○草刈 フシ全、全河添(補) 郡御井村
 ○上田 信子全、明木村 山口町伊勢門前
 ○神代 君子全、萩、河添 堀内
 ○大賀 チヨ全、全、強屋町
 三宅 節美、大嶺村(補)
 ○吉田チヨ(原)阿、萩、土原(補) 福岡縣直橋
 會社飯塚一

○細波ハツロ全、全米屋町(補)
○大野アキ(森重)全、奈古村

○島田 壽美全、榎村(大正九年五月死亡)
○木原 類(伊藤)全、萩屋内(補) 吳市寺本町一四七

○内藤千代(彌)全、全濱崎(補) (死亡)
○上田 正子全、榎村東京府下在原郡大森高橋 恭(小野)全、奈古村(死亡)

○長見キシヨ全、萩屋内町(補) 大阪府中河内郡大戸尋常高等小學校在職
○桂ユキ(中原)全、榎東分村(補) 大阪府天王寺村巴通 元五五

○安達 バナ全、全(補)
○岡藤ミヨコ(藤本)全、萩御許町 香川県丸龜市風袋町中ノ町

○原 キク全、全平安古(補)
○田中千代(中原)全、全橋本 阿、佐々並川村田 イシ(今地)全、川上村 神戸市湊川二丁目一

○小野キク(松村)全、萩江向(補) 下関市軍中道町字中島
○坂本タカ(岡)全、小川村(補) 萩川島

○伊藤 於松全、大井村
○吉田 壽美全、萩川島(補)

○植村フミヨ(田中)全、榎東分村 在下関市
○齋藤 マス全、大井村 大津郡日置村神田

○原 茂世全、榎東分村(補)
○秋枝アヤコ全、福賀村

○原 フミ(長井)全、川上村 萩川島
○南方 京全、榎東分村(補)

○植村サチコ(山本)全、榎村 阿武郡三見村
○三原幸子(山中)全、萩橋本 吉敷郡小郡

○福水フサ(伊藤)全、榎村 阿、川上村
○倉増千代子全、高俣村(補) (死亡)

○河田 シズ玖、米川村(補) 萩川島
○齋藤 キク全、榎村 大坂市北区天満橋筋三ノ一七

○阿武 カン全、榎東分村 在朝鮮
○赤司尊子(倉田)全、萩吉田町 福岡縣田川郡方城村日本金庫株式會社庶務所

○黒淵キミヨ全、萩江向
○山下 サト全、榎東分村

○吉賀クリ(三村)全、萩濱吉賀幸助方
○小宮トラ(中原)全、萩土原 一丁目 朝鮮釜山本町

宮本 タカ全、萩西田町 東京府下葉町宮下二六九三
○横地 幸(河野)全、全江向 廣地葉之進内

○田邊カノ(山下)全、榎東分村
○河村タミ子全、萩熊谷町

○藤井美智子(三宅)全、全江向
○澄田 ハツ全、全福内 福岡縣田川郡神田村字金田東橋橋式

○吉本ヨシ(神村)全、全米屋町 阿、榎村雜式
○阿部 スマ全、全北片河町大、深川村正

○阿部 シゲヨ全、須佐村 須佐村育英尋常高等小學校在職
○山根 英子全、萩河添(補) 愛知縣豊橋市旭町二番町

○三好 貞子全、全西田町
○藤田豊子(末成)全、全平安古 姫路市五軒町八九

○三浦テイ(大中)全、濱江村(補) 大坂市築港七條通丁目番地 原本瀬方

○藤田 雙(栗屋)全、吉部村(補) 大、三隅村
○長谷トシ(吉賀)全、全濱崎 萩熊谷町

○加藤 彌代全、榎村(補) 萩川島
○藤見 彌代全、榎村(補) 萩川島

○中村スミ(大山)全、榎村 布哇ホル、ホアイトミシ
○松原 ツク全、全土原 下関市津崎全

○木田 秀子(村本)全、全福内(補) 阿、川上村
○萩屋秀子(村本)全、全福内(補) 阿、川上村

○馬屋原孝子全、榎東分村 福岡縣若松市
○内藤ヨシヨ全、萩江向(補) 北海道十勝郡浦幌市街

○佐藤シヅ(金子)全、全平安古(補) 市街
○藤井テツ(村田)全、全江向

○河野 千世全、全土原(補) 萩川島
○小笠原嘉子(三好)全、全米屋町(補) 萩川島

○能美ヨシ(片山)全、榎東分村 萩川島
○井上マツヨ全、福川村(補) 小學校在職

○長嶺 芳子全、徳佐村
○小河ハナエ(岩村)全、萩江向 阿、小川村

○白井ハナ(平木)全、全河添(補) 萩川島
○三浦 ヨシ全、全江向(大正九年六月死亡)

○島田ツノ(山本)全、萩濱崎 下関市入江町海岸通

○佐々並マツ(藤村)全、川上村、榎村
○松野 花子全、萩土原 其妻日本橋區本町三丁目一

○三浦 ナセ全、全濱崎
○根井由子(河北)全、全平安古 東京府下葉町根井

○河野ミツヨ全、全古今古萩(死亡) 馬米牛島寺佛

○山口屋シナ(山下)全、山田村 福岡縣田川郡神田村字金田東橋橋式

○大森 チヨ全、萩濱崎
○村上 ミツ全、全東田町

○橋 嘉子全、榎東分村(補) 大連清沢
○長崎チエ子(三上)全、山田村 東京本郷五丁目一四

○四山 ヨシ全、萩川島
○國弘 トシ全、全川島 在熊本

○林 清子全、全平安古
○若谷喜典子全、吉部村 小學校在職

○田中ツルヨ全、全
○中村操(田村)全、榎村 大坂市南區生玉前

○金子 トミ全、榎東分村
○岩崎サダ(阿座)全、萩江向

○岡野千代(長谷)全、全津守町 在臺灣
○田原千代子(石井)全、全東田町 東京 豊島区

○伊藤喜代(古橋)全、全川島 野田江成町三

○野村 フシ全、全米屋町
○金子 清全、宇田郷村(補)

○榎原マサミ全、萩福内(補) (死亡)
○福水フクヨ全、全東田町 東京府下葉町

○河野シズ(五全)全、榎東分村 東京府下葉町

○湯野ミサオ(伊藤)全、萩江向 東京府下葉町

○幸田 カリ全、榎東分村
○阿部 チヨ全、萩古萩

○松屋 チヨ全、全東田町
○岡村シゲヨ全、全平安古

○山本 松江全、全江向(補) 本間尋常小學校在職

○三上女子(松井)全、全川島(補) 大阪
○藤原キク(三村)全、榎東分村 京成郡一

○小野フミヨ全、奈古村 豊浦郡角島尋常高等小學校在職

大正五年三月卒業生 (年齢順)

- 藤井政(大賀)全、萩米屋町
- 小林 春(竹重)全、全江向
- 黒瀬ヒサ(宮原)全、山田村
- 安田 ヨシ全、福川村
- 米原ハツシ 熊本市外黒髮村
- 鈴木 藤子 阿、萩西田町
- 堀江ミドリ 全、全江向
- 村田 須惠 全、全江向
- 林修子(渡邊)全、全平安古
- 國重 静子 全、榑郷東分村
- 佐伯千代子 全、福川村
- 松井豊子(河村)全、萩橋本
- 藤井文子(竹内) 佐島地村
- 藤井 藤子 全、全江向
- 阿武 文子 全、福川村

第四回卒業生 (大正五年三月卒業)

- 石光 茂子 全、全上五間町
- 吉村 キク 全、榑郷東分村
- 山ノ下(中村)全、萩川島
- 安田 高子 全、全河添
- 藤藤ヤスコ 全、榑村大谷
- 末武 満子 全、榑郷東分村
- 玉井 芳江 全、萩江向
- 堀 君代 全、全河添
- 山本チヨコ 全、全平安古
- 藤山ユクキ 全、紫福村
- 細波アキ子 全、萩米屋町
- 國司 八重 全、榑郷東分村

- 吉武 静佐、申ノ関村
- 富塚タネ(大田) 阿、萩津守町
- 堀水タリ(増野) 全、全河添
- 堀部ヒサ(原田) 全、山田村
- 山根 豊子 全、嘉年村
- 高木 梅代 全、萩濱崎
- 藤原 久枝 全、榑郷東分村
- 山根マタコ(柳井) 全、萩平安古
- 井本 龜子 阿、須佐村
- 伊藤光子(北村) 全、萩江向
- 前田トモコ 全、地福村
- 熊美キクコ 全、萩橋本
- 佐伯菊野(世良) 全、榑村瀨淵
- 津原ミヨコ(淳里) 全、三見村
- 猪口 菊枝 兵庫縣三原
- 中根 千代 島根縣
- 阪口タカコ(高橋) 全、萩江向
- 萩葉マス(村上) 全、全東田町
- 石川 文子 全、全(補)
- 谷井雪子(柳) 全、全江向
- 花村 秀子 全、全福内
- 岡本 ミチ子 全、全吉田町
- 堀 満子 全、全河添
- 原 末 全、全平安古
- 山下 マス 全、山田村
- 柴田タケコ(吉岡) 全、高保村
- 石井 高島 全、萩土原
- 白根 光子 全、全河添
- 上田 タル 全、全御許町
- 久保 春枝(阿武) 全、全河添
- 今地 マツ 全、川上村
- 吉田ヨシコ 全、萩濱崎

第五回卒業生 (大正六年三月卒業)

- 小笠原マス 全、全福内
- 文子(野村) 全、萩御許町
- 松本 アサ(後藤) 全、全古萩
- 渡邊 八百 全、全江向
- 山中 照子 全、全橋本
- 河村 千代 阿、萩
- 重枝トラコ 全、全橋本
- 藤井 真子 全、全米屋町
- 菅藤テル子 全、全河添
- 小笠原マス 全、全福内
- 文子(野村) 全、萩御許町
- 松本 アサ(後藤) 全、全古萩
- 渡邊 八百 全、全江向
- 山中 照子 全、全橋本
- 河村 千代 阿、萩
- 重枝トラコ 全、全橋本
- 藤井 真子 全、全米屋町
- 菅藤テル子 全、全河添

- 水岡フサコ(佐々木) 阿、生雲村
- 白井アキコ(吉山) 阿、山田村
- 長谷川トシヨ 全、生雲村
- 横山 ツル 全、萩河添
- 野村 マツ 全、榑郷東分村
- 井町 スミ 全、三見村
- 江山タキコ 全、榑村補式町
- 中野 絹子 全、萩川島
- 田原 秀子 全、山田村
- 柏村ヨシ(中村) 全、萩川島
- 秋山キタ(齋藤) 全、全御許町
- 澄川トラ(桂木) 全、小川村
- 阿武ミト(河村) 全、榑郷東分村
- 藤本豊子(岩田) 原、萩御許町
- 伊佐 喜美 全、萩橋本
- 原川 満子 全、全土原
- 黒瀬ヒサ(久保田) 全、榑郷東分村
- 長見マサコ 全、福賀
- 下間 静子 全、萩吉田町
- 小笠原マス 全、全福内
- 文子(野村) 全、萩御許町
- 松本 アサ(後藤) 全、全古萩
- 渡邊 八百 全、全江向
- 山中 照子 全、全橋本
- 河村 千代 阿、萩
- 重枝トラコ 全、全橋本
- 藤井 真子 全、全米屋町
- 菅藤テル子 全、全河添

第五回卒業生 (大正六年三月卒業)

- 宮原 百重 美、赤福村
- 宮原 茂住 タミ 阿、萩平安古
- 三島 コツ 全、三見村
- 都築ユキコ 全、生雲村
- 小林 トキ 全、奈古村
- 中村 キク 全、三見村

○後藤 フミ全、萩唐橋
 ○倉富 イチ郎、鹿野村(補)都、長徳小學校在職
 ○富士見フサコ、以、岩國
 ○伊藤 雪江、阿、大井 朝鮮釜山辨天町 吉見フシ内
 ○伊藤 芳子全、全
 ○伊藤 ヨシ全、椿郷東分村(補) 兵庫
 村上 政子全、萩土原 大阪西區三軒屋町一丁目一宮城方
 ○萩原千代子(河村)全、三見村 軒屋町一丁目一宮城方
 ○岩本高(備前)全、椿郷東分村 山田町下小
 ○小河水(小河)全、小川村 島根縣津和野町
 ○藏貫 ツル全、生雲村(補)生雲尋常高等小學校在職
 ○伊藤トミ全、椿郷東分村
 ○原田 ハル子(石川)大津郡日置村古市(補) 萩五箇町
 ○長井 トシ全、川上村
 ○桂 竹子、阿、萩土原 萩五箇町
 ○神野 サキ、阿、萩江向 四七山中方
 ○奥 幾子(山根)厚、小野田(補) 大連市越後町三井
 ○白井 チカ全、全(補) 六島村大島小學校在職
 ○求岡ハルコ、美、於福村(補) 島根縣鹿足郡日原村上一十郎内
 ○渡邊 ヨシ、阿、椿村 明木尋常高等小學校在職
 ○吉屋 ハル全、萩油屋町(補) 小學校在職
 ○渡部、ナコ全、椿郷東分村
 ○草刈 政子全、萩河添
 ○小野 サキ全、椿村(補) 椿西尋常高等小學校在職
 ○乃美ハツ子全、椿津町 吉、依、村、山内、唯五郎方
 ○肝付澄江(瀧口)全、唯木(補) 唯五郎方
 ○天野ミツ(田飯)全、椿村 佐波郡三田尻局内元佐佐木跡
 ○森脇美智子(黒淵)全、山田村 山口町野小
 ○藤田ハツ子全、椿村(大正九年七月死亡)
 ○山ツツ子全、萩町
 ○新庄 貞子全、萩土原(補) 川上村立野小學校在職
 ○増山 静子全、全、萩本

○松本八重子全、全、江向(補) 一ツ木町四十八番地
 ○原東 シシ全、山田村奥玉江 熊本市上
 ○田村真子(近藤)全、椿郷東分村 林町七三 岩崎方
 ○竹内 好子全、萩古萩
 ○倉増 太代全、高僕村(補) 子、(補) 萩
 ○池田 京子全、熊谷町(補) (死亡)
 ○岸藤 京全、全、江向(補) 豊浦郡長府町南町
 ○大崎芳江(藤本)全、萩御許町 町南町
 ○金子喜代子全、全、川島
 ○武田 フヤ全、山田村奥玉江
 ○河村 信子全、江向 門司東本町二丁目海事商會
 ○田上ヨシコ全、椿郷東分村(補) 豐浦郡田井尋常高等小學校在職
 ○田中キヨコ全、椿村(補) 萩河原北西門六四池上内
 ○小柳サヨ子(並川)全、萩河添外街一丁目一
 ○原東 フミ全、椿郷東分村(補) 六四池上内
 ○中島ヨシヨ全、萩土原 (大正七年六月死亡)
 ○武林チヨコ全、全、平安古
 ○松本 静子全、全、東田町(補) 神戸市阪
 ○松尾キク(中原)全、椿郷東分村 口通七丁目
 氏名 本籍 近况
 三好 シゲ、阿、萩町濱崎 立女子職業學校在職
 栗田 鹿子全、吉部村 高僕尋常高等小學校在職
 岩武 綾全、岩橋村 高僕尋常高等小學校在職
 ○山田マサ子全、山田村 福川尋常高等小學校在職
 ○竹重 ツチ全、吉部村
 ○小野 静子全、奈吉村
 ○細永 ツタ全、三見村 (大正七年四月死亡)
 ○中原シヅコ(富田)全、萩土原 萩郷東分村 沼田ヶ原
 ○藤田 真子全、椿村
 ○羽島 志津全、椿郷東分村 吉部尋常高等小學校在職
 ○平田 スミ全、椿村
 ○品川マツコ全、福賀村
 ○堀 清子全、宇田郷村 明木尋常高等小學校在職
 ○田中 静子全、椿村(補) 學校在職
 ○高淵 美代全、全
 ○金子 徳全、宇田郷村

○宮川 ツル全、萩濱崎(補)
 ○田中キク全、椿郷東分村
 ○齋藤 ミツ全、萩南古萩(補) 萩南古萩尋常高等小學校在職
 ○手冢三枝(藤本)全、全、江向(補) 萩南古萩尋常高等小學校在職
 ○田中 静子全、椿村(補) (大正八年八月死亡)
 ○長尾キヨ子全、山田村本間
 ○柴田 キク全、江向(補)
 ○中原 則子全、福川村
 ○松本喜久子全、椿郷東分村
 ○渡邊 嘉子全、萩古萩(補) 萩明倫小學校在職
 ○久保アサ子全、全、江向(補) 萩明倫小學校在職
 ○木村 静枝、島根縣益田町
 ○杉村 サヨ、阿、山田村奥玉江、死亡
 ○小島マツ子全、椿郷東分村(補) 越ヶ濱小學校在職
 ○土田 ユ、島根縣益田町
 ○松浦 サツ、阿、萩橋本 廣島市上流川町三九生田内
 ○吉田 貞子全、椿郷東分村(補)
 ○藤田 雪枝全、萩新堀(補)
 ○藤田 庚子全、椿郷東分村
 ○内藤ツルコ全、全、江向 大阪、四天王寺日
 ○今田ナヲ全、全、全、間、本、赤、字、社、大、阪、支、部、病、院、看、護、婦、在、職
 ○山中 松子全、全、平安古 丁、目、教、育、局、不、方
 ○神田サトシ(服部)全、三見村
 ○有吉トヨ子全、萩西田町
 ○關屋 千代全、全、瓦町(補) 大井尋常高等小學校在職
 ○森屋 露子全、全、米屋町
 ○大谷 文子全、全、鹿橋
 ○中村 貞子全、椿郷東分村(大正八年死亡)
 ○岡 朝子全、萩濱崎
 ○藤田 文全、全、萩南 台所町二八
 ○藤田フサコ全、椿村
 ○米成 清子全、萩平安古(補) (大正九年六月死亡)
 ○波多野ナヲ全、全、新堀
 ○後藤 通子全、椿郷東分村
 ○河野、才、全、奈古村(補) 萩南古萩尋常高等小學校在職
 ○小田 エイ全、全、福、萩南古萩尋常高等小學校在職
 ○早川 昭子全、萩堀内(補)
 ○村上 ワン全、全、東田町(大正八年四月死亡)

44
46

44
46
47

船木堂科高等女学校

- 隔上ヨシ子全、全新郷(補) 東京女子美術学校在籍 (大正八年八月死亡)
- 大庭ヨシ全、全西田町
- 本 朝子全、全米屋町
- 陶村 園子全、全平安古、大阪東區越中町、八五八辻本方
- 松本ヨシ全、全新郷
- 吉崎 綾子、熊室津村
- 西郷ヨシ阿、樺郷東分村
- 松尾 治子全、萩江向
- 藤田 貞子全、福川村、萩土原
- 池田 トミ全、樺郷東分村
- 杉山 艶全、萩中渡
- 東谷ヒサコ(河村)全、全川島、臺灣臺中東谷方
- 吉賀 菊江全、全熊谷町
- 齊藤千代子全、大井村
- 藤村 糸妣全、樺郷東分村、萩
- 藤田 シゲ全、樺村
- 秋山 操(黒瀬)全、樺村 東京市神田區共立女子職業学校在學、水戸市外幣塾村
- 田総イヘ全、萩平安古(大正八年十一月十八日死亡)
- 後藤 テウ全、萩濱崎
- 三島ヒナコ全、三見村
- 福田和子(瀧口)都、福川村
- 木村 サダ全、萩美須町(補)
- 金子喜勢子全、樺郷東分村 在東京
- 松浦キミ子全、萩濱崎 (大正八年死亡)
- 中村ヤエ全、全江向(補) 明水尋常高等小學校在職
- 笠井 映子全、樺村(補) 長崎縣小學校在職
- 松井須磨子、赤福村
- 竹内 マツ阿、萩美須町 地福尋常高等小學校在職
- 中村 花子全、全平安古(補) 等小學校在職
- 植村フシエ全、樺郷東分村
- 安田 清子全、萩河原
- 山川ヤエ全、樺郷東分村
- 久保 操全、萩土原
- 井上 善子全、福川村
- 三戸ヨシ全、萩江向(補) 明倫尋常高等小學校在職
- 加藤 静子全、萩土原
- 鈴川 綾子 吉、東岐波村、兵庫縣武庫郡住吉村、同新郷内
- 山田ユツ子全、山田村
- 杉 登志恵全、全吉田町(補)
- 岡 シチロ全、福川村
- 山内 ヒサ全、全土原
- 安井 フニ全、川上村
- 村上 スエ全、萩町
- 香川 マサ全、土原
- 大島 雅尾全、全濱崎
- 杉山 愛子全、萩中渡、制武郡役所在勤
- 小島 芳子 全、樺郷東分村、臺灣臺中東谷方
- 小島 芳子 村、福江(補) 小學校在職
- 音吉ノブ全、萩熊谷町
- 町原シカ(小河)全、小川村
- 梅尾(全) 樺村(補) 阿蘇郡小川村
- 渡邊 幸代全、萩江向
- 白石 壽子全、全東田町 (大正八年一月死亡)
- 岡 智世子全、全
- 田坂 文全、全 久留米市外東久留米林方
- 櫻村トミ(田村)全、全河添、朝鮮咸津本町
- 藤川キヨ子全、全西田町
- 米武 愛子全、樺郷東分村越ヶ濱
- 伊藤ハナ子全、萩江向、大正八年三月死亡
- 米島マサヨ(原)全、山田村
- 兼重 安子全、萩川島
- 神代 悦子全、山田村
- 落合 敏子全、萩美須町、朝鮮平壤八千代町一三
- 植村 文子全、樺郷東分村
- 風武 竹子全、全
- 秋枝イト(阿座上)全、福賀村
- 市原 安子全、樺村、嘉年尋常高等小學校在職
- 原 スミ全、紫福村
- 大賀 ヒロ全、萩鹽屋町(補)
- 杉山アサ子(久保)全、濱崎
- 宮原 千代全、全土原
- 田中 マサ美、共和村
- 林 貞子阿、萩平安古(補)
- 堀 文子全、全江向
- 並川 千里全、小川村(在補) 萩平安古
- 今地 ヒテ全、川上村

阿座上敏子全、川上村
 ○中山 善子全、萩 (大正七年七月死亡)
 原 千代全、全
 岡 ヒテ子全、全
 瀬戸 藤之熊、勝間村

第七回卒業生 (大正八年三月卒業)
 氏名 本籍 近況
 杉戸ユミ(藤重)美、大田村 島根縣那賀郡石見村
 ○山縣 ナス阿、萩平安古
 ○伊達ユキヨ全、樺村 玖珂郡散島養老傳習所在學
 ○金子 貞全、宇田郷村
 ○遠崎 シツ全、萩濱崎町 上海、橫濱橋三、遠崎洋行
 平田 春江全、小川村
 山中 繁全、萩濱崎(補)

復任校

- 阿武フミ全、萩川島
- 和田 貞 郡、萩東村 十本
- 阿川 榮子阿、地福村
- 兒玉 キキ全、樺郷東分村越ヶ濱、
- 厚中 美恵全、全
- 宮本 信子全、福賀村 萩平安古 (肥後)
- 岡村 由枝 島根縣鹿足 郡津和野町、阿福川村
- 植村 基徳阿、樺郷東分村
- 松永 カツ大、向津具村
- 吉津 シキ阿、樺郷東分村
- 竹内 淑子全、萩平安古 白水尋常高等小學校在職
- 前田 磯子全、山田村、英城縣水戸市上南三
- 三隅田タマ全、萩平安古(補) 奈古尋常高等小學校在職
- 米島 シツ全、山田村
- 藤田 トヨ全、樺村
- 津田サダ子全、萩江向(補)
- 山下 キヨ全、山田村(補)
- 森田ミチ子全、福川村(補)
- 藤田 綾子全、全
- 藤田 ト子全、川上村 阿 沖床
- 河村 清子全、樺郷東分村

住持 寺三

○松田 初枝美、大嶺村(補) 萩唐植村田方
○大野 美知子 全、萩土原
○倉田 喜久代 大坂市 熊本縣天草郡維和村天草製鐵所

○中村 ノオ 阿、萩土原
○末益 マス 阿、奈古村
○波多野 芳子 全、三見村

○山本 前子 全、萩英服町
○田坂 文子 全、全江向 東京市(在補)
○清部 ヲ子 全、全橋本 (大正九年死亡)

○由中 トシコ 全、椿村(補) 川上小高松(在補)
○半井 嘉子 全、萩吉田町
○大田 春代 全、吉部村

○前田 美子 全、地福村
○羽仁 トミコ 全、萩平安古(補) 白水女子師範
○伊藤 桃與 全、椿郷東分村(補)

○立野 彌子 全、田万崎村 廣福女子師範
○天谷 静子 全、萩濱崎
○喜藤 ハナ子 全、全全

○信常 善子 全、全全(在補)
○野村 幸子 全、全全
○小田 ナヨ 全、山田村 大坂市(在補)

○小澤 シシ 全、萩本生村
○小野 君子 全、田万崎村(補) 本橋
○小野 静子 全、椿村 山田女子師範

○口羽 朝子 全、萩生村 山田女子師範
○岡本 幸子 全、椿郷東分村(補)
○矢島 サカヘ 全、高俣村

○山田 ミツ 全、奈古村(補) 本橋
○山中 照子 全、萩町濱崎
○木 康子 全、全全

○松浦 ヲ子 全、全橋本
○松林 和子 全、椿郷東分村 萩本小學
○松本 幸子 全、萩町

○松浦 クラ 全、奈古村 萩本小學
○福島 仁子 全、椿郷東分村
○古川 末子 全、田万崎村

○見玉 章子 全、明木村

○落合 愛子 東京小石川區久堅町六九
其他
○松枝 全、川上村

第八回卒業生 (大正九年三月卒業)
氏名 本籍 近況

○五峯 ヲシコ 阿、萩町濱崎(在補)
石光 波子 全、全全

○飯田 テイ 東京本郷區駒込、追分
林 春枝 阿、萩町川島(在補) 追分

○椿 静子 全、全平安古
原 敏子 全、地福村 東京共立女子師範

○仁尾 玉 高知縣高岡郡、東江向
○堀江 ヒヨ子 阿、萩江向 東京女子師範

○堀本 トシ子 全、全堀内
○重田 喜代子 全、全河添
○領家 文子 阿、宇田郷村

○大谷 キク 全、椿村濱崎(在補)
見玉 フサ子 吉、井關村 東京女子師範

○後藤 カツ子 阿、萩町唐橋
○小河 ツチ子 全、小川村
○島 聖子 全、椿郷東分村(在補)

○遊藤 千代子 吉、小郡町 萩吉田町
○寺山 豊子 阿、地福村
○阿武 菊枝 全、川上村(在補) 萩平安古

○阿武 佳重 全、萩町(補)
○阿武 露子 全、椿郷東分村(在補)
○佐竹 昌子 美、岩永村

○佐久間 三子 阿、嘉子村 本橋
○木村 キヨ子 全、萩町 本橋

○北野 ツネ子 全、全全
○岸 緑 全、椿村(補)
○行本 ヲシ 全、萩町橋本

○瀧部 元紀 全、椿郷東分村 生重町出立
○瀧部 篤子 全、萩町 生重町出立

○三浦 アサ子 全、全全
○三浦 キヨ子 全、山田村

○渡邊 初子 全、萩町
○加藤 シズ子 全、全全(在補)
○金岡 テル子 全、全江向

○河野 ヲキ子 全、全濱崎
○金子 ヲシ子 全、全江向(在補)
○片山 三知子 全、椿郷東分村(在補)

○高村 ミチ子 全、全橋本
○高洲 ナナ子 全、萩町土原(在補) 東京市(在補)

○田中 キサ子 全、椿郷東分村(在補)
○竹内 恒子 全、萩町濱崎
○高橋 キク子 全、全唐橋

○田村 マサ子 全、山田村山田 下関市外海久園
○田坂 アサ子 熊八代村
○坪倉 シズ子 阿、萩町石屋町

○根來 美代子 美、萩吉村
○中原 澄 阿、萩町江向 在東京

○永田 シズ子 全、椿郷東分村
○村田 勝子 全、萩町江向(在補)

○井町 ヲシ子 全、萩町濱崎
○重岡 キヨ子 全、全全(在補)
○白井 サダ子 全、椿村(在補) 東京女子師範

○進藤 秀子 全、椿郷東分村 東京女子師範
○鹽見 愛江 全、椿村(在補)
○平田 カノ子 全、全全(在補)

○森永 優子 美、眞長田村
○櫻川 葵子 阿、萩町 福川小學校在補

○須子 美登里 全、小川村 本橋
○山崎 ササ子 全、大井村 東京女子師範

○鈴木 セサ子 全、全山田村 東京女子師範
○鈴木 セサ子 全、全山田村 東京女子師範

○有吉 ノブ子 阿、萩西田町
○有吉 マス子 全、萩北古萩
○池田 ハル子 全、萩土原

○石川 久子 全、椿村神原 東京女子師範
○坂垣 龍子 全、萩東田町
○伊藤 節子 全、萩堀内 (死亡)

本科第四回卒業生(大正十年三月卒業)

三十三明華
三十三明華
三十三明華

上野 ユキ 阿、萩濱町(在神)
 宇多田静子 全、椿郷東分村沼田ヶ原
 大山千代子 全、奈古村(在神)
 小田ユツ子 全、山田村 本校寄宿舎
 小野村チヨ 全、山田村 本校寄宿舎
 大深 基 全、奈古村 本校寄宿舎
 岡本チキ子 全、萩春若町 阿、椿郷東分村
 大木カヅノ 熊、佐賀村 本校寄宿舎
 榊 壽子 阿、椿郷東分村 本校寄宿舎
 賀屋 秀子 全、萩土原
 河村キク子 全、萩土原(在神)
 國重タツ子 全、萩東田町
 國重 淑子 全、萩川島 本校寄宿舎
 栗田シヅ子 全、嘉年村 本校寄宿舎
 倉重フミ子 全、椿郷東分村 本校寄宿舎
 小池キヨ子 全、生豊村 本校寄宿舎
 小島 貞子 全、椿郷東分村 本校寄宿舎
 小枝千代子 全、萩東濱町 本校寄宿舎
 佐伯 清子 全、福川村 本校寄宿舎
 坂本シヅ子 全、明水村 本校寄宿舎
 佐久間ユキ 全、嘉年村 本校寄宿舎
 岡山ミサ子 大、向津具村 本校寄宿舎
 瀧川 愛子 阿、生豊村 全、萩江向
 谷川トラ子 全、山田村 全、萩江向

楠 マス子 阿、佐々並村(在神) 本校寄宿舎
 平野ノブ子 全、萩濱町 本校寄宿舎
 中村サカエ 全、萩江向 本校寄宿舎
 中村チル子 全、萩八丁 本校寄宿舎
 能美ツチ子 全、川上村 本校寄宿舎
 原 ユキ子 全、萩御許町 本校寄宿舎
 原田 光子 美、共和村 本校寄宿舎
 藤村ミツ子 阿、萩熊谷町 本校寄宿舎
 藤山於菟子 全、萩川島(在神)
 堀 フミ子 全、萩川島
 松浦ミサ子 全、萩 本校寄宿舎
 溝部 勝子 全、萩川島(在神)
 三原アサ子 島、萩川島西濱村 本校寄宿舎
 三好 マツ 阿、椿郷東分村香川濱(在神)
 榊木 里 大、三開村 南、萩熊谷町
 守永 節子 阿、生豊村 本校寄宿舎
 山本 キク 全、山田村浦 本校寄宿舎
 山根 静子 全、大井村 本校寄宿舎
 吉村 キヨ 全、椿村 東、女子大
 白井 サダ 全、椿村 東、女子大

本科第三學年 五十音順

氏名 本籍 近況
 秋山 京子 阿、萩南古萩
 安藤 クリ 全、椿郷東分村
 阿武 来子 全、萩川島
 池上 キク 吉、萩徳三島村 阿、萩江向
 石井 フサ 阿、椿郷東分村
 石川 ツル 全、萩濱町
 石津 存子 全、萩河添 本校寄宿舎
 伊藤 菊子 全、大井村 本校寄宿舎
 井上ミツ子 全、萩河添 本校寄宿舎
 小川ミツ子 全、宇田郷村 萩五開町
 小野 フサ 全、奈古村 萩五開町
 河内山鏡子 全、萩堀内
 柏木 晴子 全、萩東田町
 片山壽満子 全、椿郷東分村
 磯田マツ子 全、萩南片河
 北野フシ子 全、萩平安古
 水原 花子 全、萩堀内 阿、萩平安古
 桑原 小春 津、和野町
 桑原 サヨ 阿、萩平安古
 桑原 節子 全、田万崎村 本校寄宿舎
 小茅 マキ 全、萩

阿武 重子 阿、福川村 本校寄宿舎
 石津 可子 全、萩町
 板谷 敏子 全、山田村
 井田 幸子 阿、萩堀内 阿、萩橋本町
 宇佐川都子 阿、萩堀内
 小田 花子 全、萩熊谷町
 大田 克子 全、吉部村 本校寄宿舎
 大田 キク 全、椿郷東分村
 大藤 アイ 大、向津具村川尻 阿、萩江向
 金子シズ子 阿、椿郷東分村鶴江
 兼重 魚子 全、萩御許町
 河村千代子 全、萩西田町
 河村テル子 全、明水村 本校寄宿舎
 木村 静子 全、萩北古萩
 口羽 龜古 全、生村生雲東分、本校寄宿舎
 久保田チヨ子 全、椿郷東分村
 兒玉 貞子 全、田万崎村 本校寄宿舎
 笹井 ヨナ 全、萩町
 佐々木民子 大、三開村 本校寄宿舎
 齋藤 貞子 大、三開村 阿、萩江向
 齋藤 愛 阿、田万崎村 本校寄宿舎
 末岡 貞子 全、嘉年村 本校寄宿舎
 鈴木ヒナ子 全、須佐村 本校寄宿舎
 鈴木フサ子 全、山田村
 新庄 信子 阿、萩熊谷町
 鈴木美代子 全、椿郷東分村
 助石アサ子 全、萩平安古
 田坂 孝子 全、萩江向
 田總 ユキ 全、萩平安古
 中村 静子 全、萩平安古
 中村 春子 全、萩江向 阿、椿村様式町
 中村 君代 全、萩御許町
 中原 豊子 全、福川村 本校寄宿舎
 長嶺 洋子 全、萩西田町 阿、萩東分村
 野村 静子 全、萩下五開町 阿、萩東分村
 羽仁 素子 全、萩江向 阿、山田村川屋敷
 林 アサ 全、萩江向
 林 久 全、萩土原
 福永 梅子 全、萩橋本町
 堀トキ子 全、萩川島
 三浦 テル 全、萩濱町新丁
 三島夫久子 全、萩
 瀧部キク江 全、椿郷東分村
 三好 敏子 全、萩東田町
 三村ミサ子 全、福川村 本校寄宿舎
 三輪 鶴子 全、萩御許町
 榊木百合子 全、萩橋本町
 村木 ナス 全、椿郷東分村

藤原 静子 阿、椿村
 堀 静子 全、藤郷吏分村
 松本 ロナ 全、三見村
 松浦 八重 全、萩東田町
 松本 静子 全、萩東田町
 松永 歌子 大、向津具村 萩町平安古
 村木 カツコ 阿、萩濱崎町
 村木 静子 全、萩堀内
 村田 ト子 全、萩東田町
 安田 真子 全、萩河添
 山根 チセ 全、椿村 阿、椿村大屋
 吉田 ミホ子 大、三隅村
 吉賀 キヨ 阿、萩土原
 吉武 フジ 全、萩
 渡邊 カツ 全、萩細工町
 若松 静子 全、萩東田町

編輯餘滴

- 一、本誌は六月末に發行すべき筈なりしも材料蒐集の都合上遅延せしは編輯部員等の深く御詫申すところなり
- 二、經費の都合によりて校外會員中、會費未済の方へは送ることを得ざりしは遺憾なり、尙會費未済の方は早く御送付下されし
- 三、校外會員消息を歓迎す、今後多數に御近況御報道下されし
- 四、名簿中に相違の點あるか又は氏名、本籍、近況等に御異動ありたる際は早速に南園會々報部へ御一報下されし

圓圓圓圓
 也也也也

山口町 山萩全
 江口辰二氏 江井あい氏
 師井あ子氏 下間静子氏
 岡本氏

同窓會基金募集趣意書

同窓相親しみ、和睦むは自然の人情である。一樹の蔭に宿り、一河の流を汲むさへ他生の縁といふに、數年窓を同じうした者が、舊を懐ひ、新を語りて喜ぶは萬人共通で、而も人生に於ける暖味である。たゞひ身は異境にあつても、一片の音信を得た時、誰しもいひ得ぬ靈感にうたれるであらう。

我校同窓會は、總會の開催せられること既に七回、會員亦既に六百有餘。校運と共に此會も年々隆昌となつてゆきつゝあるは、眞に慶賀に堪へない所である。今や此會は會員相互の舊情を温める機關たらしめると同時に、心身の修養を圖るべき所まで生立つて來た。多少なりとも社會の爲に貢献する機關たらしめようといふ積極的な計畫を立てるべき域まで進んで來た。のみならず日新の世は我等の油斷をゆるさぬ。少しでも怠つて居ると時勢に遅れることを免れない。是を以て總會當日又は夏季休業の際などに、本會主催の講習會の開催、若しくは有益な圖書を巡廻せしめて會員相互の堅實なる修養を圖り、日新の知見を廣めると共に、一般の婦人もなるべく之を加はることを得しめたならば、此會も益有意義なものとなるべきである。加之老いたる人を慰めることや、世のあはれなものを助けることは、婦人のなすべき行の中で、最も尊くて奥床しいことであれば、此會の事業として甚だ適當なことである。年々一回催す總會も會費の爲に出席に影響するやうなことがあつては誠に残念である。

以上述べたことと對する經費の外、會員の近况や、通信などにも多少の經費を要する。將來同窓會をして益々發展せしめるには、相當の經費を支出することはやむがたい事情である。此會の進展と時勢とは我等の奮起を促してやまぬ。今の時は躊躇逡巡して居るべき時でない。これが本會に基金を蓄積して其活動を大ならしめようとする唯一の動機である。近時會員中既に此議を提起するものあり、依つて本年八月の總會に於て、之を會員より圖りしに、満場一致を以て可決せられる所となつた。乃ち當日出席せられぬ同窓會員諸姉や、江湖の諸彦の同情を訴へて、其賛同を乞ふ所以である。

大正九年八月

山口縣萩高等女學校同窓會

同窓會基金募集規則

- 一、基金ハ其利子ヲ以テ同窓會ノ事業ヲ助ケ其發展ヲ圖ルモノトス
- 二、基金ハ同窓會員並ニ一般篤志者ノ寄附ニ俟ツモノトス
- 三、基金ノ寄附ハ五拾錢以上トス
但幾回ニ分納スルモ妨ケナシ
- 四、基金ノ寄附ハ直接萩高等女學校ニ申込ムカ又ハ各區支部幹事ニ申込ムモノトス
但遠隔地ニ在ル人ハ山口縣萩高等女學校(振替貯金口座番號福岡一一八一四)ニ拂込ムヲ便トス此場合ニ於テハ裏面通信欄ニ同窓會基金寄附ノ旨記載ヲ要ス
- 五、基金寄附者ノ氏名並ニ金額ハ南園會報ニ掲載スル外同窓會基金寄附彙帳ニ登錄シ永ク其芳名ヲ留ムルモノトス
- 六、基金ノ利子ハ同窓會ニ使用スル外毎年利子ノ十分ノ一ヲ元金ニ繰入レ其増殖ヲ圖ルモノトス
- 七、基金ノ保管ハ同窓會長之ニ當リ之ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

同窓會基金寄附情况

大正九年八月二十八日ヨリ九月十日マデノ寄附

金貳圓七拾錢也	萩町	高木梅代氏
金壹圓也	山口町	江口辰二氏
金壹圓也	萩町	師井あゐ氏
金壹圓也	全	下間静子氏
金壹圓也	全	岡本静子氏
金壹圓也	全	岡朝子氏
金參拾圓也	萩高等女學校職員中	朝子氏
計金參拾七圓七拾錢也		

阿武郡萩町吳服町
全 全 東田町
全 全 全

上利政三 名古屋市私立東海中學校
中村彌兵 阿武郡萩町平安古
三輪マサ (井上)石川縣立第一高等女學校
山田兵吉 竹内新三郎

藤原 體子 阿、樺村
堀 登子 全、藤原、井上

大正九年九月五日印刷
大正九年九月十日發行
(非買品)

發行者 山口縣萩高等女學校
右代表者 南園會會報部

編輯兼 山口縣萩高等女學校內
發行者 池上岩太郎

印刷人 山口縣吉敷郡山口町道場門前第九番地
大津い わ

印刷所 全 山口春海館

